

消 防 年 報

平成18年版



鳥取県西部広域行政管理組合

消 防 局

(平成19年刊行)

は　じ　め　に

この消防年報は、鳥取県西部広域行政圏の消防現勢並びに、平成18年度における消防行政の執行状況を広く一般に紹介し、今後の消防行政の運営に資するため編さんしたものです。

なお、予算については会計年度を用い、その他の表についてはそれぞれに記載する年月日で表したものです。

平成19年10月

鳥取県西部広域行政管理組合消防局

目 次

鳥取県西部広域行政管理組合管内の概況	1
組合管内全図	2
管内常備消防の沿革	3
歴代の管理者・議長・消防長	14
鳥取県西部広域行政管理組合消防局組織図	15
消防機関の出動状況	16
相互応援協定	17
事務分掌	18
消防職員	
(1)職員配置状況	21
(2)職員在職年数	23
(3)職員年齢構成	24
(4)職員研修状況	25
(5)職員採用試験	26
消防予算の状況	
(1)平成19年度当初予算額の対前年度比較	27
(2)平成19年度当初予算額の財源内訳	28
(3)平成18年度決算額	28
消防施設	
(1)消防庁舎の位置・構造	29
(2)消防吏員待機宿舎概要	29
(3)消防車両等配置数	30
(4)消防車両概況	31
(5)通信施設	33
予 防	
(1)防火対象物の現況	36
(2)各種届出事務処理の状況	37
(3)予防査察件数	37
(4)防火指導等状況	37
(5)建築同意の用途別事務処理状況	38
(6)危険物施設の現況	39
救急・救助	
救 急	
(1)救急隊配置場所	40
(2)高規格救急車積載一覧	41
救 助	
(1)救助隊配置場所	42
(2)高度救助用資機材一覧	42
救助工作車(Ⅲ型)積載一覧表	43
火 災 概 況	
火災概況	44
別図Ⅰ-1 火災件数の推移	45
別図Ⅰ-2 火災種別出火ごとの構成比率	45
別図Ⅰ-3 月別の出火件数	46
別図Ⅰ-4 市町村別火災件数の構成比率	46
別図Ⅰ-5 経過別死者発生状況	47
別図Ⅰ-6 経過別負傷者発生状況	47
別表Ⅰ-1 平成18年の火災の概況	48
別表Ⅰ-2 月別火災発生状況	49

別表Ⅰ－3 市町村別火災発生状況 -----	50
別表Ⅰ－4 出火原因別火災発生概況 -----	51
別表Ⅰ－5 過去10年間の火災発生状況 -----	52
救急・救助概況	
救急概況	53
別図Ⅱ－1 事故種別救急出場件数 -----	54
別図Ⅱ－2 事故種別救急搬送人員 -----	54
別図Ⅱ－3 過去5年間の救急推移 -----	55
別図Ⅱ－4 市町村別救急活動状況 -----	55
別図Ⅱ－5 傷病程度別搬送人員 -----	56
別図Ⅱ－6 年齢別搬送人員 -----	56
別図Ⅱ－7 署所別救急活動状況 -----	57
別図Ⅱ－8 月別救急活動状況 -----	57
別図Ⅱ－9 現場到着所要時間 -----	58
別図Ⅱ－10 収容所要時間 -----	58
別図Ⅱ－11 応急手当実施状況 -----	59
別図Ⅱ－12 高度救命処置件数 -----	59
別図Ⅱ－13 医師引き継ぎ時の状況 -----	59
別図Ⅱ－14 過去5年間の救急講習件数推移 -----	60
別図Ⅱ－15 過去5年間の救急講習人員推移 -----	60
応急手当指導員・普及員の養成 -----	60
救助概況	61
別図Ⅲ－1 事故種別救助出場件数 -----	61
別図Ⅲ－2 事故種別救助活動件数 -----	62
別図Ⅱ－3 事故種別救助人員 -----	62
別図Ⅱ－4 救助事故の負傷程度 -----	63
別図Ⅲ－5 署別救助活動状況 -----	63
119番着信状況	
119番着信状況 -----	64
別表Ⅳ－1 119番着信件数の推移 -----	65
別表Ⅳ－2 月別119番着信状況 -----	65
別表Ⅳ－3 携帯電話及び固定電話からの着信件数の推移 -----	65
別表Ⅳ－4 携帯電話からの着信状況 -----	66
別表Ⅳ－5 携帯電話の消防機関別転送状況 -----	66
別図Ⅳ－1 通報内容別着信状況 -----	67
別図Ⅳ－2 月別着信状況 -----	67
別図Ⅳ－3 時間帯別着信状況 -----	68
別図Ⅳ－4 携帯電話及び固定電話からの着信状況比率 -----	68
消防団・水利・大火災記録	
消防団の人員と装備 -----	69
管内水利状況 -----	70
大火災記録 -----	71
関係団体	
〔米子市危険物保安協会〕 -----	73
〔米子自衛防火協会〕 -----	75
〔境港市消防保安協会〕 -----	77

鳥取県西部広域行政管理組合管内の概況

位置と地勢

当組合は、鳥取県の西部に位置し、中海を抱く米子市・境港市を中心として西伯郡・日野郡の2市2郡（9市町村）で構成されている。

米子市は、この地域における行政・交通・教育・文化など多面的な中枢機能をもつ山陰有数の商業都市であり、それと隣接する境港市は、日本海に面する重要港湾境港により海外貿易の門戸として、また沖合漁業の基地として知られ、弓浜半島の先端部に位置している。

米子市の南部、法勝寺川の流域平野部に南部町があり、西域は島根県境と接しており、また名峰「大山」を臨む東部日本海沿岸部には日吉津村・大山町（西伯郡）があり、平坦部には肥沃な農地が拓け、沿岸漁業も盛んである。

一級河川日野川の流域、遠く岡山・広島県境に至る中国山地に日南・日野・江府の各町（日野郡）が位置し、日野路への進入路には米子市と隣接して伯耆町（西伯郡）がある。

人口・世帯数・面積

平成19年4月1日現在

構成市町村	人口(人)	世帯数(世帯)	面積(km ²)
米子市	149,730	60,643	132
境港市	36,903	14,543	29
日吉津村	3,220	939	4
大山町	19,098	5,949	189
南部町	12,190	3,854	114
伯耆町	12,282	3,767	139
日南町	6,239	2,333	341
日野町	4,179	1,522	134
江府町	3,748	1,166	125
合計	247,589	94,716	1,207

注) 人口(外国人を含む)



管内常備消防の沿革

1. 米子市の消防

- 明治 26 年 3 月 米子町消防条例を制定し、定員21人、消防ポンプ2台(機種不明)をもって消防組を編成した。
- 昭和 2 年 4 月 市制実施
- 昭和 6 年 4 月 消防ポンプ自動車1台購入配置、森田式タービンポンプ4気筒A型フォード製
- 昭和 9 年 月 米子市公設消防組設置、消防ポンプ自動車1台、消防夫20人の常備制をとり、詰所を市役所内においた。
- 昭和 14 年 4 月 警防団令の施行によって、米子市警防団を結成し、消防組は警防団の消防部となった。
- 昭和 18 年 4 月 消防部の詰所を富士見町2丁目126番地に移転した。
- 昭和 22 年 5 月 消防団令が公布されて、警防団は解散し、新しく米子市消防団が結成されたが、消防部は市の常備消防部となった。
- 昭和 23 年 9 月 消防組織法の施行により米子市消防本部及び米子市消防署が設置され、消防職員24人、消防ポンプ自動車3台で業務開始した。初代消防長吉村泰之氏就任(収入役兼務)
- 昭和 24 年 7 月 小型消防ポンプ自動車1台購入配置
- 昭和 24 年 9 月 小型消防ポンプ自動車1台購入配置
- 昭和 25 年 10 月 消防ポンプ自動車1台購入配置
- 昭和 26 年 4 月 消防職員43人となる。(内2人は本庁兼務)
- 昭和 28 年 4 月 消防職員46人となる。(")
- 昭和 30 年 11 月 消防庁舎を増改築した。木造瓦葺2階建延面積464. 477諾、消防職員定数54人となる。
- 昭和 30 年 11 月 消防ポンプ自動車1台を購入配置
- 昭和 31 年 5 月 2代消防長に船越照郷氏就任
- 昭和 31 年 7 月 消防本部係制実施(庶務、予防第一、予防第二、消防、機械の5係)
- 昭和 32 年 11 月 消防ポンプ自動車1台購入配置
- 昭和 33 年 4 月 指揮車(ジープ型)1台購入配置
- 昭和 34 年 4 月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台の寄贈を受けた。(損保号)
- 昭和 37 年 11 月 消防ポンプ自動車1台を購入配置(2号車)
- 昭和 38 年 7 月 3代消防長に戸田勇氏就任
- 昭和 40 年 4 月 4代消防長に吉村純一郎氏就任
- 昭和 40 年 9 月 5代消防長に松田宏氏就任
- 昭和 40 年 9 月 広報車1台購入配置(日本消防協会配車)
- 昭和 41 年 9 月 消防ポンプ自動車1台購入配置(1号車)
- 昭和 42 年 6 月 消防本部に課制実施(警防課、総務課)

昭和42年7月 消防職員定員65人となる。

昭和42年12月 救急自動車1台、化学車1台購入配置

昭和42年12月 富士見地区区画整理事業実施により富士見町1丁目103番地の1に新庁舎を新築移転した。鉄筋コンクリート造3階建延総面積1,3207㎡

昭和43年2月 救急業務開始

昭和43年3月 水そう付消防ポンプ自動車1台購入配置(速消車)

昭和43年11月 消防ポンプ自動車1台購入配置(6号車)

昭和44年3月 屈折梯子付消防ポンプ自動車購入配置(スノーケル車)

昭和44年4月 6代消防長に植田実氏就任

昭和45年3月 消防ポンプ自動車1台購入配置(5号車)

昭和45年11月 日本損害保険協会から水そう付消防ポンプ自動車1台の寄贈を受けた。(火災保険号)

昭和47年4月 消防職員の定数70人となる。

昭和47年5月 指揮車を購入し更新配置した。(指揮1号)

昭和48年4月 消防職員の定数72人となる。

昭和48年12月 救急自動車1台を購入配置した。(救急2号)

昭和49年1月 小型トラック1台を購入配置した。(作業車)

昭和49年6月 広報車1台購入配車。(広報2号)

昭和50年3月 消防ポンプ自動車1台購入配置

昭和50年4月 西伯郡7町村(西伯、岸本、会見、淀江、大山、名和町及び日吉津村)から救急業務を受託して業務開始、消防職員定数77人となる。

昭和50年7月 東京海上火災保険株式会社から広報車1台の寄贈を受けた。(広報1号)

昭和50年8月 鳥取県共済農業協同組合から救急自動車1台の寄贈を受けた。(救急3号)

昭和50年9月 日本消防協会から救急自動車1台の配車を受けた。(救急1号)

昭和51年1月 7代消防長に名和義則氏就任

昭和51年4月 皆生1,661番地に皆生出張所を開設し、分遣隊による業務開始。鉄筋コンクリート造平屋建延面積391.957ば、消防職員定数79人となる。

2. 境港市の消防

昭和31年5月 境港市消防本部設置(市制施行に伴う)
 団長 西村清美民 団員定数150名(6ヶ分団)
 消防ポンプ自動車 6台

昭和31年5月 境港市消防団常備部開設
 常備部長 団長 西村清美民 主任 中嶋登美夫氏
 常備部定員14名 消防ポンプ自動車A2級1台(S28.2購入)

消防専用中短波無線電話 基地局1、移動局2

庁舎 木造瓦葺2階建(延106.38丁ば)
 (第1分団(境)の消防車庫に改築し、待機室、仮眠室増設)

	所在地、境港市上道町1, 703番地
昭和 31 年 10 月	常備部定員18名となり、4名増員
昭和 33 年 9 月	全市内に上水道消火栓が敷設させる。初年度92ヶ所
昭和 34 年 7 月	境港市消防署設置 消防長 林 義人氏(署長兼務) 署員定数19名
昭和 36 年 5 月	消防庁舎新築(延353. 17丁ば) 所在地 境港市上道町1, 600番地
昭和 36 年 11 月	消防署員10名増員 署員定数 29名
昭和 37 年 7 月	消防ポンプ自動車(A2級)1台新設(損害保険協会より寄贈を受ける)
昭和 39 年 4 月	救急業務開始。救急車(ジープ型)1台配置(日赤鳥取支部より貸与)
昭和 40 年 3 月	救急車(セドリック)更新(日赤貸与)
昭和 42 年 10 月	2代消防長 梶野利雄氏(市総務課長兼務)
昭和 42 年 12 月	3代消防長 景山善次郎氏(市収入役兼務) 化学消防ポンプ自動車(1型)1台新設 境港市消防保安協会より購入費一部(100万円)採納、購入額4, 345千円
昭和 43 年 3 月	消防専用超短波無線電話設置(中短波を更新) 5基(固定局1、移動局4)
昭和 43 年 4 月	消防署組織改編。庶務、警防、予防3係設置
昭和 43 年 9 月	代消防長 中嶋登美夫氏(専任、署長兼務)
昭和 44 年 12 月	4消防ポンプ自動車(A1級)1台新設。購入額2, 386千円
昭和 45 年 1 月	救急車(ニッサンB型)1台新設(消防庁より寄贈)
昭和 45 年 4 月	水そう付消防ポンプ自動車(1型、A1級)1台新設。購入額3, 180千円
昭和 46 年 5 月	広報連絡車(三菱ギャラン)1台新設(日本消防協会より寄贈)
昭和 46 年 12 月	消防専用超短波無線電話(移動局)2基増設
昭和 48 年 1 月	消防ポンプ自動車(A2級)1台増設。購入額2, 705千円
昭和 48 年 3 月	消防専用超短波無線電話、周波数改正により更新(周波数152. 08MC) 基地局1基、移動局2基
昭和 49 年 3 月	消防専用超短波無線電話、移動局3基更新(周波数改正)
昭和 50 年 4 月	消防署組織改編、課制施行。消防課、庶務係、警防係、予防係、1課3係
昭和 50 年 9 月	救急車(2B型)1台増設。(日本消防協会より寄贈)
昭和 50 年 9 月	救急車(セドリック)1台廃棄。(日赤鳥取支部より貸与分)

3. 鳥取県西部広域行政管理組合消防

昭和51年5月1日 “鳥取県西部広域消防” 発足
鳥取県西部地域における常備消防体制の確立をはかるため、鳥取県西部広域行政管理組合(米子市、境港市、西伯町、会見町、岸本町、日吉津村、淀江町、大山町、名和町、中山町、日南町、日野町、江府町及び溝口町の2市12町村で構成)においては、昭和51年4月13日政令指定を受け、組合において消防業務を処理することになり、昭和51年5月1日組合消防本部、米子消防署、境港消防署を開庁

して業務を開始し、全面業務開始の昭和51年10月1日に向け、庁舎の建設、人員、器材の整備充足を図ることになった。

発足時の消防勢力は、消防職員数112人、消防ポンプ自動車8台、水そう付ポンプ自動車3台、化学消防自動車2台、屈折はしご付消防ポンプ自動車1台、救急自動車5台、指揮車1台、査察広報車3台、作業車1台

火災出場は、米子市、境港市の区域とし、救急出場は、米子市、境港市及び西伯郡の区域とする。

初代消防長に名和義則氏就任

- 昭和 51 年 6 月 2 日 住友生命相互会社から救急自動車(無線機付)1台の寄贈を受けた。
- 昭和 51 年 7 月 1 日 消防職員31人を採用した。
- 昭和 51 年 7 月 16 日 広報車1台を購入した。(日本消防協会配車)
- 昭和 51 年 8 月 1 日 松江地区消防組合及び安来市能義郡消防組合との間に中海消防相互応援協定を締結した。
- 昭和 51 年 9 月 25 日 消防ポンプ自動車2台を購入した。(江府、大山出張所分)
- 昭和 51 年 9 月 30 日 広報車1台を購入した。
- 昭和 51 年 10 月 1 日 米子消防署大山出張所及び江府出張所を開設し、管内全域において業務運用開始。
- 昭和 51 年 10 月 2 日 救急指令装置完成
- 昭和 51 年 11 月 13 日 40m級梯子付消防自動車を購入し、米子消防署に配備
- 昭和 51 年 11 月 15 日 日本損害保険協会から救急自動車1台の寄贈を受け、大山出張所に配備
- 昭和 52 年 2 月 22 日 消防ポンプ自動車4台を購入した。(西伯、溝口、生山、中山出張所用)
- 昭和 52 年 3 月 14 日 消防ポンプ自動車1台を購入した。(弓浜出張所)
- 昭和 52 年 8 月 29 日 古峠山無線中継局が完成した。
- 昭和 52 年 4 月 1 日 消防職員の定数208人となる。
消防職員67人を採用し、彦名小学校跡において彦名消防研修所を開設して初任研修を開始した。
- 昭和 52 年 4 月 26 日 広報車1台を購入した。(中山出張所用)
- 昭和 52 年 5 月 1 日 退職職員の補充として消防職員4人を採用した。
- 昭和 52 年 5 月 17 日 指揮車1台を購入し、米子消防署に配置した。
- 昭和 52 年 6 月 30 日 彦名消防研修所の研修を修了し、閉所した。
- 昭和 52 年 7 月 1 日 米子消防署西伯出張所、同溝口出張所、同生山出張所、同中山出張所の庁舎が完成し、それぞれ業務を開始した。
境港市小篠津町668番地の仮庁舎で、境港消防署弓浜出張所を開設し、業務を開始した。
- 昭和 52 年 9 月 17 日 日本消防協会から救急自動車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
- 昭和 52 年 10 月 4 日 鳥取県共済生活協同組合から広報車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
- 昭和 52 年 11 月 1 日 境港消防署弓浜出張所庁舎の工事が完成し、米子市大篠津町2, 913番地1の新庁舎において業務を開始し、仮庁舎を閉所した。
- 昭和 52 年 12 月 9 日 消防ポンプ自動車(CD-1)7台を購入し、江府、大山、西伯、溝口、生山、中山、弓浜の各出張所に配置した。

昭和 53 年 2 月 6 日	株式会社菊屋から救急自動車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
昭和 53 年 3 月 31 日	中部広域行政管理組合との間に西部、中部地区消防相互応援協定を締結した
昭和 53 年 5 月 1 日	退職職員の補充として消防職員2人を採用した。
昭和 53 年 5 月 30 日	日本損害保険協会から水そう付消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
昭和 53 年 6 月 1 日	退職職員の補充として、消防職員1人を採用した。
昭和 53 年 6 月 9 日	指揮広報車2台を購入し、西伯出張所及び溝口出張所に配置した。
昭和 53 年 11 月 27 日	消防ポンプ自動車(CD-1)2台を購入し、米子消防署及び皆生出張所に配置した。
昭和 53 年 11 月 28 日	日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、境港消防署に配置した。
昭和 54 年 2 月 20 日	救助工作車1台を購入し、米子消防署に配置した。
昭和 54 年 4 月 1 日	消防職員の定数220人となる。 消防職員12人を採用した。
昭和 54 年 6 月 5 日	指令広報車1台を購入し、境港消防署弓浜出張所に配置した。
昭和 54 年 6 月 11 日	指揮車1台を購入し、米子消防署に配置した。
昭和 54 年 10 月 1 日	本部総務課に教養係を設け、本部予防課指導係を廃して危険物係、建築係とし、境港消防署に機械係を設けた。
昭和 54 年 10 月 13 日	境港美保ライオンズクラブから救急車1台の寄贈を受け、境港消防署に配置した。
昭和 54 年 10 月 17 日	水そう付消防ポンプ自動車1台を購入し、米子消防署に配置した。
昭和 54 年 10 月 27 日	消防ポンプ自動車(BD-1型)1台を購入し、境港消防署に配置した。
昭和 54 年 11 月 1 日	山陰酸素工業株式会社から広報車1台の寄贈を受け米子消防署に配置した。
昭和 54 年 12 月 1 日	指令広報車1台を購入し、境港消防署に配置した。
昭和 55 年 3 月 26 日	合資会社キョートスポーツから救急車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
昭和 55 年 4 月 1 日	消防職員の定数232人となる。 消防職員14人を採用
昭和 55 年 7 月 1 日	中山出張所及び生山出張所救急業務を開始
昭和 55 年 8 月 27 日	日本消防協会から救急車1台の寄贈を受け、中山出張所に配置
昭和 55 年 8 月 29 日	日本消防協会から司令広報車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置
昭和 55 年 10 月 29 日	中山地区前進基地局開局(消防無線呼出名称西部消防中山)
昭和 55 年 11 月 7 日	消防ポンプ自動車(BD-1型)1台を購入し、米子消防署に配置
昭和 55 年 11 月 25 日	水そう付消防ポンプ自動車1台を購入し、境港消防署に配置
昭和 55 年 12 月 5 日	鳥取県消防設備保安協会より原動機付自転車2台及び和文タイプライター1台の寄贈を受け、米子消防署に配置
昭和 55 年 12 月 26 日	化学消防自動車1台を購入し、米子消防署に配置
昭和 56 年 1 月 20 日	救急車(3B型)1台を購入し、米子消防署に配置
昭和 56 年 4 月 1 日	消防職員の定数242人 消防職員14人採用
昭和 56 年 7 月 24 日	空気呼吸器充填用高圧コンプレッサーを皆生出張所に配備

昭和 56 年 9 月 30 日	日本消防協会から小型工作車1台の寄贈を受け、境港消防署に配置
昭和 56 年 11 月 30 日	水槽付消防ポンプ自動車1台を購入し、皆生出張所に配置
昭和 57 年 4 月 1 日	消防職員の定数246人 消防職員9人採用 消防本部の機構の一部改正(1本部4署、6出張所) 大山消防署、江府消防署開設(米子消防署大山、江府出張所をそれぞれ消防署に昇格) 第2代消防長に仲田末男氏就任
昭和 57 年 5 月 31 日	指揮車1台更新(米子消防署)
昭和 57 年 6 月 1 日	防火基準適合表示制度(「表示マーク」交付)実施
昭和 57 年 7 月 16 日	小型動力ポンプB2級2台を購入し米子、大山消防署に配備
昭和 57 年 11 月 16 日	消防ポンプ自動車(CD－Ⅱ型)1台更新(米子消防署)
昭和 58 年 3 月 31 日	中山地区救急波前進基地局新設
昭和 58 年 4 月 1 日	鳥取県消防学校開校 教官として2名の職員を派遣した。
昭和 58 年 8 月 31 日	日本消防協会から救急自動車(2B型)1台の寄贈を受け境港消防署に配置
昭和 59 年 2 月 24 日	小型動力ポンプB2級2台を購入し西伯、中山出張所に配備
昭和 59 年 3 月 9 日	日本損害保険協会から救急自動車(2B型)1台の寄贈を受け大山消防署 中山出張所に配置
昭和 59 年 7 月 1 日	第3代消防長に西田英二氏就任
昭和 59 年 7 月 20 日	消防本部庁舎に冷房設備を取付けた。
昭和 59 年 12 月 25 日	無線施設空中線塔の改修工事を行なった。
昭和 60 年 3 月 10 日	境港消防署庁舎に冷暖房設備を取付けた。
昭和 60 年 3 月 20 日	大山消防署中山出張所移転新築落成。中山町松河原弓ノ木880 (起工 昭和59年8月7日)
昭和 60 年 8 月 15 日	境港消防署第2消防車庫新築落成 (起工 昭和60年5月20日)
昭和 60 年 8 月 21 日	日本消防協会から救急自動車(2B型)1台の寄贈を受け米子消防署に配置
昭和 61 年 5 月 22 日	指令車1台を購入し、消防本部に配置
昭和 61 年 9 月 27 日	山陰酸素工業から連絡車1台の寄贈を受け、消防本部に配置
昭和 61 年 11 月 25 日	山之内製薬株式会社より救急車1台の寄贈を受け、大山消防署に配置
昭和 62 年 7 月 25 日	指揮車1台を購入し、消防本部に配置
昭和 62 年 8 月 19 日	江府消防署及び生山出張所の冷暖房設備改修工事を行なった。
昭和 62 年 9 月 3 日	日本消防協会より電源照明車1台の寄贈を受け、皆生出張所に配置
昭和 63 年 3 月 23 日	日本損害保険協会より救急車1台の寄贈を受け、江府消防署に配置
昭和 63 年 4 月 1 日	退職職員の補充として、消防職員3人を採用した。定数246名
昭和 63 年 6 月 29 日	大山消防署の冷暖房設備の改修工事を行った。
昭和 63 年 7 月 4 日	広報車1台更新(皆生出張所)
昭和 63 年 8 月 2 日	日本消防協会から救急車(2B型)1台の寄贈を受け皆生出張所に配置
昭和 63 年 9 月 1 日	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車(BD－Ⅰ型)1台の寄贈を受け米子 消防署に配置
昭和 63 年 11 月 15 日	消防ポンプ自動車[(CD－Ⅰ型)電動ホースカー付]1台を購入

平成元年2月25日 消防ポンプ自動車(CD-I型)1台更新(境港消防署)

平成元年3月30日 消防本部の受水槽設備の改修及び米子消防署の車庫排気ダクト設備の工事を行った。

平成元年4月1日 第4代消防長に岩佐弘志氏就任
消防職員定数253名
消防職員11名採用

平成元年5月22日 広報車2台更新(江府、大山消防署)

平成元年9月25日 超短波無線電話装置の設置

平成元年10月1日 溝口出張所に救急隊設置

平成元年10月25日 溝口出張所庁舎の増築、改修工事

平成元年10月27日 15m級梯子付消防自動車1台を購入、皆生出張所に配置

平成元年10月30日 救助用資機材(ホルマトロ)一式を購入、米子消防署に配置

平成元年11月2日 作業車1台更新(米子消防署)

平成元年12月25日 溝口出張所に救急自動車(2B型4WD)1台配置

平成2年4月1日 消防職員定数258名
消防職員7名採用

平成2年4月1日 米子消防署皆生出張所に特別救助隊を設置し、業務を開始した。

平成2年6月23日 広報車3台を購入、皆生、中山、生山出張所に配置

平成2年7月31日 梯子車分解整備、西伯出張所ホース乾燥塔補強

平成2年8月21日 (有)日本消防協会から携帯無線機10台、拡声器2台を寄贈

平成2年8月21日 (有)日本消防協会から指令広報車1台寄贈、境港消防署に配置

平成2年9月6日 救急車(2B型4WD)を購入、生山出張所に配置

平成2年9月18日 (謝)日本防火協会から防火広報車1台寄贈、消防本部に配置

平成2年11月21日 生山出張所改装工事

平成2年11月30日 超短波無線電話装置消防波10W2台、救急波10W3台購入

平成2年12月14日 消防ポンプ自動車2台購入、大山、江府消防署に配置

平成2年12月21日 消防本部防水及び外壁改装工事

平成3年1月21日 危険物第4類試験装置一式購入

平成3年2月6日 安田生命保険相互会社から救急自動車(日産2B型)1台寄贈、境港消防署に配置

平成3年3月20日 江府消防署敷地拡張造成工事

平成3年3月25日 米子消防署仮眠室空調機取替修繕

平成3年3月27日 油圧切断機1台購入

平成3年4月1日 消防職員定数262名
消防職員12名採用

平成3年4月25日 (郷)日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車1台寄贈、境港消防署に配置

平成3年7月12日 査察用軽自動車2台購入
米子消防署、溝口出張所に配置

平成3年8月20日 西伯出張所冷暖房改修工事

平成3年9月5日 (有)日本消防協会から救急車1台寄贈、米子消防署に配置

平成3年10月1日 大山消防署敷地拡張造成工事

平成3年10月22日 消防本部新庁舎建設用地取得

平成 3 年 11 月 27 日 超短波無線電話装置購入
消防波10W2台、救急波1台

平成 4 年 1 月 10 日 消防ポンプ自動車2台購入、中山、生山出張所に配置

平成 4 年 1 月 11 日 消防本部庁舎新築工事着工

平成 4 年 3 月 2 日 空気呼吸器5基、軽量ボンベ9本購入

平成 4 年 5 月 4 日 救急救命士誕生

平成 4 年 7 月 11 日 消防本部主訓練塔新築工事着工
消防本部緊急通信指令施設設置工事着工
消防無線設備改修工事着工
(消防本部・古峠山中継所・日南前進基地・中山前進基地)

平成 4 年 9 月 16 日 (財)日本消防協会から防火広報車寄贈、消防本部配置

平成 4 年 12 月 21 日 高規格救急車1台購入、米子消防署配置
啓発広報車1台購入、消防本部配置

平成 5 年 1 月 22 日 米子消防署救急救命隊発足・業務開始

平成 5 年 2 月 28 日 消防本部庁舎新築工事完成

平成 5 年 3 月 20 日 消防本部主訓練塔新築工事完成

平成 5 年 3 月 26 日 消防本部緊急通信指令施設設置工事完成
消防無線設備改修工事完成
(消防本部・古峠山中継所・日南前進基地・中山前進基地)

平成 5 年 4 月 1 日 消防本部移転、名称も消防本部から消防局に改名
同時に、消防局に指令課を新設
消防職員12名採用

平成 5 年 5 月 24 日 査察用軽自動車2台購入
中山、生山出張所に配置

平成 5 年 6 月 3 日 広報車2台更新(西伯、溝口出張所)

平成 5 年 8 月 30 日 (財)日本消防協会から防火広報車寄贈、消防局に配置

平成 5 年 10 月 1 日 西伯出張所に救急隊設置

平成 5 年 11 月 15 日 西伯出張所の増築・改修工事完成

平成 5 年 1 月 26 日 消防ポンプ自動車2台購入、皆生、西伯出張所に配置

平成 6 年 2 月 26 日 山之内製菓より救急車1台寄贈、中山出張所に配置

平成 6 年 4 月 1 日 消防職員定員284名
消防職員11名採用

平成 6 年 5 月 10 日 査察用軽自動車2台購入(皆生出張所・西伯出張所に配置)

平成 6 年 5 月 25 日 広報車2台更新(消防局・弓浜出張所に配置)

平成 6 年 9 月 29 日 弓浜出張所庁舎の増築・改修・車庫の新築工事完成

平成 6 年 10 月 1 日 弓浜出張所に救急隊配備

平成 6 年 10 月 13 日 大山消防署救急車の更新

平成 7 年 1 月 17 日 阪神・淡路大震災、救助・救急隊災害派遣(1次～4次)

平成 7 年 2 月 10 日 溝口出張所1号車の更新

平成 7 年 3 月 27 日 (財)日本損害保険協会から高規格救急車寄贈、境港消防署に配置
(弓浜出張所1号車更新)

平成 7 年 4 月 1 日 第5代消防局長に石上洋二氏就任
消防職員3名採用

平成 7 年 4 月 3 日 境港消防署、救急救命隊発足・業務開始

平成 7 年 12 月 23 日 境港消防署、新庁舎完成

平成 8 年 1 月 22 日 消防ポンプ自動車3台購入(米子消防署・大山消防署・江府消防署
に配置)

平成 8 年 2 月 26 日 米子市から連絡車寄贈、消防局に配置

平成 8 年 3 月 26 日 消防ポンプ自動車1台購入、生山出張所に配置

平成 8 年 3 月 28 日 高規格救助工作車(Ⅲ型)1台購入

平成 8 年 4 月 1 日 消防職員定員287名

平成 8 年 4 月 25 日 高規格救助工作車(Ⅲ型)皆生出張所に配置

平成 8 年 5 月 1 日 西部広域消防発足20周年記念式典開催

平成 8 年 12 月 19 日 25m級梯子車1台購入、境港消防署に配置

平成 8 年 12 月 25 日 査察用軽自動車1台購入、弓浜出張所に配置

平成 9 年 1 月 31 日 消防ポンプ自動車2台購入(西伯出張所・溝口出張所に配置)

平成 9 年 4 月 1 日 消防職員5名採用

平成 9 年 8 月 20 日 日本宝くじ協会から消火通報指導車寄贈、消防局に配置

平成 9 年 9 月 16 日 高規格救急車1台購入、大山消防署に配置

平成 9 年 10 月 1 日 大山消防署、救急救命隊業務開始

平成 9 年 11 月 7 日 タンク車及び消防ポンプ自動車各1台購入、弓浜出張所・中山出張
所に配置

平成 9 年 11 月 25 日 皆生出張所庁舎の増築・改修工事完成

平成 9 年 12 月 25 日 資機材搬送車1台購入、米子消防署に配置

平成 10 年 4 月 1 日 消防職員1名採用

平成 10 年 7 月 1 日 境港消防署に水難救助隊を設置し、業務を開始した。

平成 10 年 7 月 6 日 鳥取県消防防災航空隊の運用を開始した。 3名の職員を派遣

平成 10 年 11 月 30 日 江府消防署庁舎の増築・改修工事完成

平成 11 年 1 月 14 日 高規格救急車1台購入、江府消防署に配置

平成 11 年 1 月 25 日 消防ポンプ自動車2台購入(米子消防署・境港消防署に配置)

平成 11 年 1 月 25 日 タンク車1台購入、米子消防署に配置

平成 11 年 2 月 1 日 江府消防署、救急救命隊業務開始

平成 11 年 3 月 10 日 現場指揮車1台購入、米子消防署に配置

平成 11 年 3 月 31 日 境海上保安部と鳥取県西部消防局との消防業務協定

平成 11 年 4 月 1 日 消防職員1名採用

平成 11 年 5 月 7 日 鳥取県西部圏域危険物等事故対策協議会設立総会開催

平成 11 年 8 月 19 日 鳥取県西部圏域危険物等事故対策協議会合同訓練会

平成 11 年 12 月 31 日 Y2K越年警戒体制

平成 12 年 1 月 24 日 消防ポンプ自動車1台購入、米子消防署に配置

平成 12 年 1 月 24 日 タンク車1台購入、境港消防署に配置

平成 12 年 1 月 31 日 大山消防署庁舎の増築・改修工事完成

平成 12 年 2 月 21 日	救助工作車(Ⅱ型)1台購入、境港消防署に配置
平成 12 年 3 月 23 日	(財)日本損害保険協会から高規格救急車寄贈、米子消防署に配置 米子救急救命車を更新
平成 12 年 3 月 27 日	大山消防署敷地拡幅
平成 12 年 10 月 6 日	鳥取県西部地震発生(13時30分・マグニチュード7.6)
平成 13 年 1 月 15 日	高規格救急車1台購入、生山出張所に配置
平成 13 年 1 月 16 日	40m級梯子車1台購入、米子消防署に配置
平成 13 年 2 月 1 日	生山出張所、救急救命隊業務開始
平成 13 年 2 月 28 日	化学消防自動車1台購入、境港消防署に配置
平成 13 年 4 月 1 日	第6代消防局長に清水 隆氏就任
平成 13 年 4 月 1 日	消防職員7名採用、防災支援要員4名配置
平成 13 年 4 月 1 日	鳥取県防災監危機管理課に職員1名を派遣
平成 13 年 11 月 19 日	高規格救急車1台購入、中山出張所に配置
平成 13 年 12 月 1 日	中山出張所、救急救命隊業務開始
平成 14 年 1 月 31 日	(財)日本損害保険協会からタンク車寄贈、皆生出張所に配置
平成 14 年 1 月 31 日	中山出張所改築改修工事完成
平成 14 年 4 月 1 日	第7代消防局長に・谷耕史氏就任
平成 14 年 4 月 1 日	消防職員3名採用
平成 14 年 12 月 20 日	広報車1台購入、皆生出張所に配置
平成 15 年 1 月 21 日	救助工作車1台購入、江府消防署に配置
平成 15 年 3 月 20 日	指揮車1台購入、境港消防署に配置
平成 15 年 4 月 1 日	消防職員3名採用
平成 15 年 4 月 1 日	鳥取県防災監消防課に職員1名を派遣
平成 15 年 10 月 15 日	広報車2台購入(米子消防署・大山消防署に配置)
平成 15 年 11 月 17 日	高規格救急車1台購入、西伯出張所に配置
平成 15 年 12 月 1 日	西伯出張所、救急救命隊業務開始
平成 16 年 3 月 5 日	広報車2台購入(中山出張所・生山出張所に配置)
平成 16 年 3 月 17 日	指揮車2台購入(大山消防署・江府消防署に配置)
平成 16 年 4 月 1 日	消防職員1名採用
平成 16 年 4 月 1 日	総務省消防庁に職員1名を派遣
平成 16 年 10 月 1 日	西伯町と会見町が合併し、南部町が誕生
平成 16 年 10 月 1 日	米子消防署西伯出張所が米子消防署南部出張所に名称変更
平成 16 年 11 月 29 日	高規格救急車1台購入、溝口出張所に配置
平成 16 年 12 月 15 日	溝口出張所、救急救命隊業務開始
平成 17 年 1 月 1 日	岸本町と溝口町が合併し伯耆町が誕生
平成 17 年 1 月 1 日	江府消防署溝口出張所が米子消防署伯耆出張所に名称変更
平成 17 年 1 月 12 日	消防ポンプ自動車1台購入、境港消防署に配置
平成 17 年 2 月 23 日	高規格救急車1台購入、弓浜出張所に配置
平成 17 年 3 月 9 日	弓浜出張所、救急救命隊業務開始
平成 17 年 3 月 28 日	大山町・名和町・中山町が合併し、大山町が誕生
平成 17 年 3 月 31 日	指令設備を更新し、高機能指令システムを導入
平成 17 年 3 月 31 日	米子市と淀江町が合併し、米子市が誕生
平成 17 年 4 月 1 日	第8代消防局長に中田正男氏就任

平成 17 年 4 月 1 日	消防職員定員292名
平成 17 年 4 月 1 日	消防職員8名採用
平成 17 年 11 月 20 日	高規格救急車1台購入、米子消防署救急2分隊に配置
平成 17 年 12 月 1 日	皆生出張所、米子消防署救急2分隊高規格救急車を使用し 救急救命隊業務開始
平成 17 年 12 月 21 日	(財)日本損害保険協会から高規格救急車寄贈、皆生出張所に配置
平成 18 年 2 月 28 日	タンク車1台購入、伯耆出張所に配置
平成 18 年 11 月 24 日	米子市危険物保安協会から広報車1台寄贈、消防局に配置
平成 19 年 2 月 23 日	タンク車1台購入、大山消防署に配置
平成 19 年 4 月 1 日	米子消防署 新庁舎完成
平成 19 年 4 月 1 日	消防職員2名採用

歴代の管理者・議長・消防長

歴代管理者

米子市長	河合弘道 (S47. 4. 30～S58. 4. 29)
"	松本徹 (S58. 4. 30～H 3. 4. 29)
"	森田隆朝 (H 3. 4. 30～H15. 4. 29)
"	野坂康夫 (H15. 4. 30～)

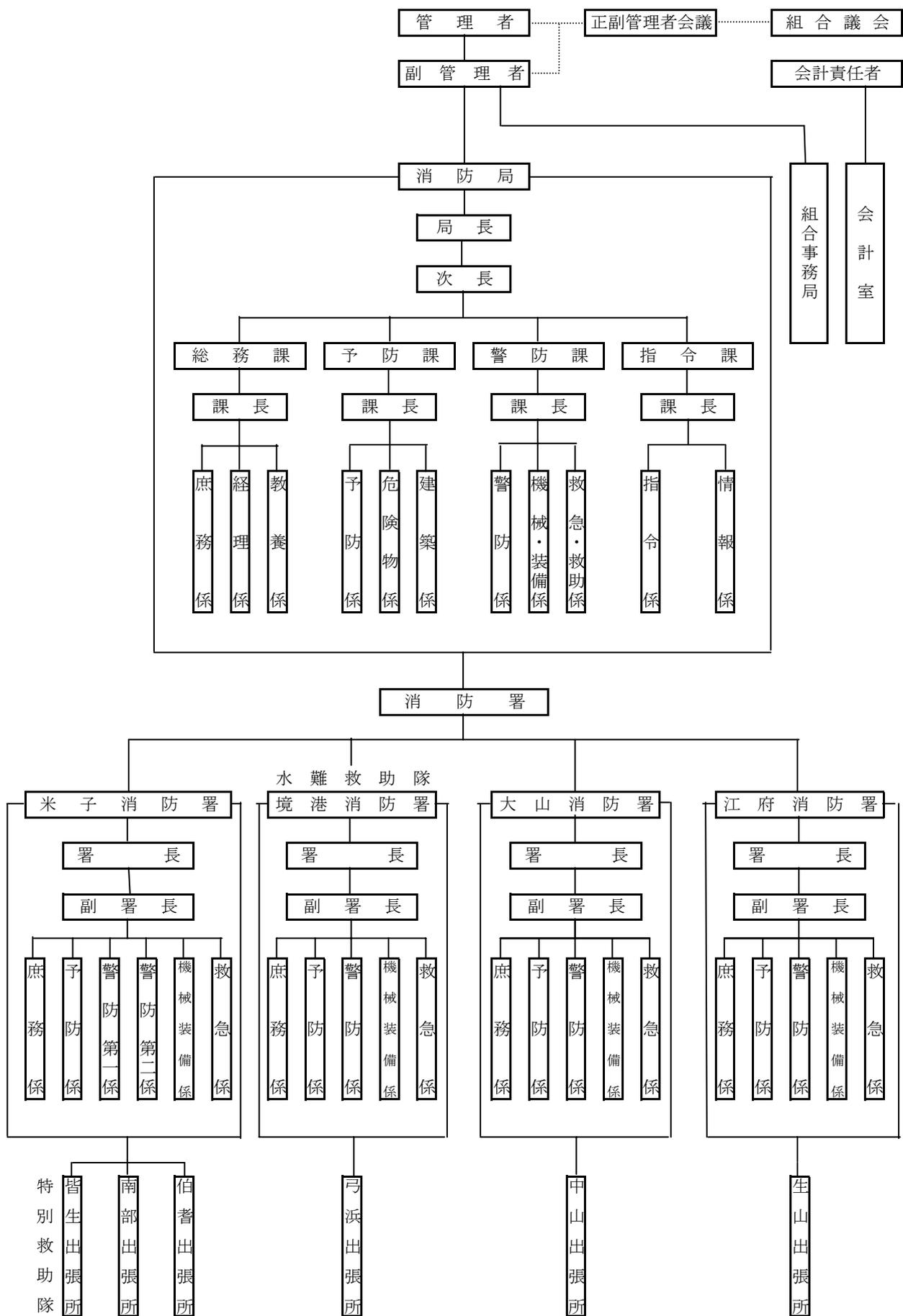
歴代議長

初代	足立六郎 (米子市) S47. 8.16～S50. 4.30
二代	田丸喜久治 (") S50. 7.28～S54. 4.30
三代	安達昭男 (") S54. 6. 2～S56. 6.29
四代	田村繁夫 (") S56.10.16～S57.12. 9
五代	福谷清 (") S58. 1.31～S58. 4.30
六代	広江弑 (") S58. 6.10～S59. 7.19
七代	国尾茂 (") S59.10. 8～S61. 7.17
八代	茅野恒治 (") S61. 9. 5～S62. 4.30
九代	種原敏彦 (") S62. 6.11～H元. 6.23
十代	塚田喜美 (") H元. 6.23～H 3. 4.30
十一代	福谷清 (") H 3. 6.13～H 5. 6.25
十二代	足芝孝幸 (") H 5.10.25～H 7. 4.30
十三代	間瀬庄作 (") H 7. 7.13～H11. 4.30
十四代	平田賢 (") H11. 7.29～H13. 6.22
十五代	中本実夫 (") H13. 7.12～H15. 4.30
十六代	生田薫 (") H15. 7.28～H17.3.30
十七代	生田薫 (") H17. 4.15～H18.6.30
十八代	吉岡知己 (") H18.7.20～

歴代消防長

初代消防長	名和義則 S51. 5. 2～S57. 3.31
第二代消防長	仲田末男 S57. 4. 1～S59. 6.30
第三代消防長	西田英二 S59. 7. 1～H元. 3.31
第四代消防長	岩佐弘志 H元. 4. 1～H 7. 3.31
第五代消防長	石上洋二 H 7. 4. 1～H13. 3.31
第六代消防長	清水隆 H13. 4. 1～H14. 3.31
第七代消防長	廣谷耕史 H14. 4. 1～H17. 3.31
第八代消防長	中田正男 H17. 4. 1～

鳥取県西部広域行政管理組合消防局組織図



消防機関の出動状況

[平成18年中(平成18年1月1日～平成18年12月31日)]

区 分		種 別	計	火 災	救 急 業 務	救 助 活 動
			(ア)～(ス)	(ア)	(イ)	(ウ)
消・ 防署 局所	出 動 回 数		12,998	112	9,125	230
	出 動 延 人 員		48,120	1,792	27,375	2,328

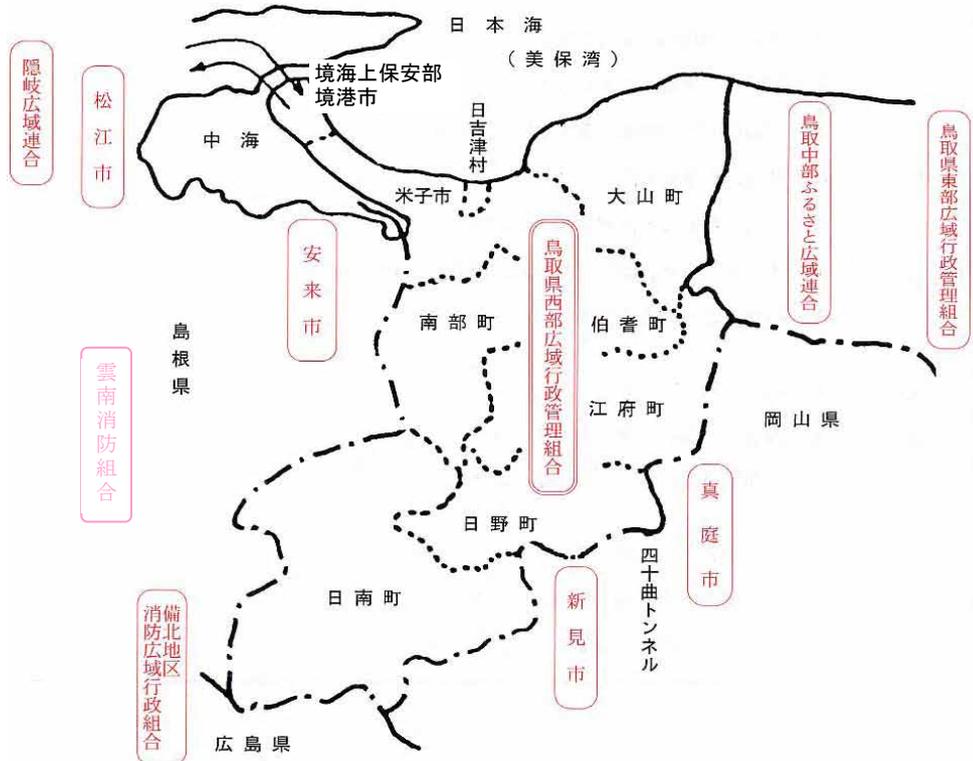
風水害等の災害 (エ)	演 習 訓 練 (オ)	広 報 ・ 指 導 (カ)	警 防 調 査 (キ)	火 災 原 因 調 査 (ク)
29	486	1,123	141	112
114	3,678	4,031	480	728

特 別 警 戒 (ケ)	捜 索 (コ)	予 防 査 察 (サ)	誤 報 等 (シ)	そ の 他 (ス)
70	4	852	24	690
231	21	2,982	381	3,979

相互応援協定

平成19年4月1日現在

名 称	協 定 団 体	締結・改訂年月日
美保空港における航空機事故に対する 消火救難活動に関する協定	大阪航空局美保航空事務所	昭和62年 2月16日
中海地区消防相互応援協定	松江市 (島根県) 安来市 (")	平成元年 4月 1日
隠岐島の救急業務の共同処理	松江市 (島根県) 出雲市 (") 隠岐広域連合 (")	平成14年 1月 1日 (改)
米子自動車道における政急業務に関する 覚書	日本道路公団広島管理局	平成 4年11月12日
高速自動車国道中国横断自動車道岡山米 子線における消防相互応援に関する協定	真庭市 (岡山県)	平成17年10月 1日 (改)
山陰道(米子～安来)における消防相互 応援に関する協定	安来市 (島根県)	平成10年 3月18日
鳥取県下広域消防相互応援協定	鳥取県東部広域行政管理組合 鳥取中部ふるさと広域連合	平成10年 4月 1日
境海上保安部と鳥取県西部広域行政管理 組合消防局との消防業務協定	境港上保安部	平成11年 3月31日
鳥取県西部広域行政管理組合と備北地区 消防広域行政組合の消防相互応援協定	備北地区消防広域行政組合 (広島県)	平成12年 3月31日
消防相互応援に関する協定書	新見市 (岡山県) 真庭市 (")	平成17年10月 1日 (改)
	雲南消防組合 (島根県)	平成17年10月 1日
鳥取県航空消防支援協定	鳥取県 鳥取県東部広域行政管理組合 鳥取中部ふるさと広域連合	平成16年 3月15日



事 務 分 掌

1. 消防局事務分掌

平成19年4月1日現在

	消 防 局 長 次 長 次長兼総務課長 予 防 課 長 警 防 課 長 指 令 課 長	消 防 正 監 消 防 監 消防司令長 消防司令長 消防司令長	中 田 正 男 種 原 正 人 戸 田 隆 次 足 羽 克 澄 武 本 和 之 船 越 聡
総 務 課	(1) 人事、給与、服務及び例規に関すること。 (2) 総合計画及び企画に関すること。 (3) 予算及び経理に関すること。 (4) 消防用財産に関すること。 (5) 職員の研修に関すること。 (6) 他の課に属さないこと。		
予 防 課	(1) 火災の予防に関すること。 (2) 危険物の規制に関すること。 (3) 災害原因及び損害の調査に関すること。 (4) 建築同意事務に関すること。 (5) 消防用設備等の指導に関すること。 (6) 火薬類の譲渡、譲受け及び消費の許可に関すること。 (7) 液化石油ガス設備工事の届出に関すること。		
警 防 課	(1) 消防計画に関すること。 (2) 救急及び救助業務に関すること。 (3) 消防機械器具及びその装備に関すること。		
指 令 課	(1) 消防指令業務に関すること。 (2) 消防関係情報の処理に関すること。 (3) 通信機器の管理に関すること。		

2. 消防署事務分掌

	次長兼米子消防署長 境港消防署長 大山消防署長 江府消防署長	消 防 監 消防司令長 消防司令長 消防司令長	浦 木 内 田 桑 名 菅 野	昇 幸 治 強 靖 雄
庶務係	(1) 署内人事及び賞罰に関すること。 (2) 署員の教養訓練及び服務に関すること。 (3) 経理に関すること。 (4) 各種統計に関すること。 (5) 他の分掌に属さないこと。			
予防係	(1) 災害の調査に関すること。 (2) 予防査察に関すること。 (3) 危険物の規制に関すること。 (4) 建築同意に関すること。 (5) 火災予防の啓発、宣伝に関すること。 (6) り災証明に関すること。 (7) 火薬類の譲渡、譲受け及び消費の許可に関すること。 (8) 液化石油ガス設備工事の届出に関すること。			
警米防第子一係署	(1) 水火災の警戒、防ぎよに関すること。 (2) 水火災の警防計画に関すること。 (3) 消防訓練の実施に関すること。 (4) 災害の情報の処理に関すること。 (5) 救助業務に関すること。			
警米防第子二係署	(1) 消防用地理、水利の点検及び調査に関すること。 (2) 消防用器具の維持管理に関すること。 (3) 水火災その他災害情報連絡及び消防通信に関すること。			

警境 港署 ・ 大 防山 署 ・ 江 府 係 署	(1) 水火災の警戒、防ぎよに関する事。
	(2) 水火災の警防計画及び訓練の実施に関する事。
	(3) 消防用地理、水利の点検及び調査に関する事。
	(4) 消防用器具の維持管理に関する事。
	(5) 水火災その他災害情報連絡及び消防通信に関する事。
	(6) 救助業務に関する事。
機 械 係	(1) 消防機械に関する教養及び訓練に関する事。
	(2) 消防機械の整備、保全及び検査に関する事。
救 急 係	(1) 救急隊業務に関する事。
	(2) 救急指定医療機関との連携調整に関する事。
	(3) 救急統計、報告等に関する事。

3. 出張所事務分掌

(1) 火災その他災害防ぎよに関する事。
(2) 文書の收受、発送及び記録の整備保全に関する事。
(3) 庁舎の維持管理及び諸物品の保管に関する事。
(4) 所属職員の教養訓練に関する事。
(5) 予防査察に関する事。
(6) 火災予防条例による届出に基づく調査指導に関する事。
(7) 建築同意に関する事。
(8) 火災予防の啓発、宣伝に関する事。
(9) り災証明に関する事。
(10) 消防用地理、水利の点検及び調査に関する事。
(11) 消防用器具及び消防機械の整備保全に関する事。
(12) 水火災その他災害情報連絡及び消防通信に関する事。
(13) 救急業務に関する事。(救急隊を配置する出張所に限る)。
(14) 救助業務に関する事。
(15) その他出張所に関する事。

消 防 職 員

(1)職員配置状況

区 分	条 例 定 員	実 員	消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	事 管 吏 員
昭51. 5. 1	143	112		1	4	5	14	30	7	48	3
昭51. 7. 1	143	143		1	4	5	14	30	7	79	3
昭52. 4. 1	208	206	1	2	2	3	18	40	5	132	3
昭53. 4. 1	208	207	1	2	2	4	25	43	7	120	3
昭54. 4. 1	220	220	1	1	3	5	25	50	5	127	3
昭55. 4. 1	232	232	1	2	2	10	22	50	16	126	3
昭56. 4. 1	242	242	1	2	3	8	22	48	16	140	2
昭57. 4. 1	246	246	1		7	8	23	53	11	141	2
昭58. 7. 1	246	246	1	2	5	9	31	48	31	117	2
昭59. 7. 1	246	246	1	2	6	9	30	51	28	117	2
昭60. 7. 1	246	245	1	1	7	9	30	52	28	115	2
昭61. 3. 31	246	245	1	1	7	6	32	52	28	116	2
昭62. 3. 31	246	245	1	1	7	7	31	52	28	116	2
昭63. 3. 31	246	245	1	2	6	7	33	51	28	115	2
平元. 4. 1	253	253	1	2	6	7	33	52	28	112	2
平 2. 4. 1	258	258	1	2	6	7	36	57	32	115	2
平 3. 4. 1	262	262	1	2	6	11	38	59	33	110	2
平 4. 4. 1	264	264	1	2	6	11	43	63	33	103	2
平 5. 4. 1	277	277	1	2	6	13	48	63	43	99	2
平 6. 4. 1	284	284	1	1	7	14	49	66	53	91	2
平 7. 4. 1	284	284	1	2	8	12	54	67	55	83	2
平 8. 4. 1	287	284	1	2	8	12	60	71	53	75	2
平 9. 4. 1	287	287	1	2	8	12	63	72	53	74	2
平10. 4. 1	287	287	1	2	8	12	64	74	56	68	2
平11. 4. 1	287	287	1	2	8	12	64	74	56	68	2
平12. 4. 1	287	286	1	2	8	13	63	74	56	67	2
平13. 4. 1	287	287	1	2	8	14	63	74	57	66	2
平14. 4. 1	287	287	1	2	8	15	63	82	51	63	2
平15. 4. 1	287	287	1	2	8	15	61	94	38	66	2
平16. 4. 1	287	287	1	2	9	33	59	91	37	53	2
平17. 4. 1	292	290	1	2	12	37	63	90	36	46	3
平18. 4. 1	292	291	1	2	12	47	72	91	29	34	3
平19. 4. 1	292	292	1	2	14	45	77	89	28	33	3

職 員 配 置 状 況

平成19年04月01日現在

		実 員	消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	事 務 吏 員
消 防 局	消 防 局 長	1	1								
	次 長	3(2)		2							1
	総 務 課	13			1	3		2	2	2	2(1)
	予 防 課	7			1	5	1				
	警 防 課	5			2	3					
	指 令 課	14			1	6	5	2			
米 消 防 署	本 署	46		(1)	2	4	13	14	5	7	
	皆 生 出 張 所	24			1	1	5	9	5	3	
	南 部 出 張 所	19				2	6	8	1	2	
	伯 耆 出 張 所	19				2	6	7	2	2	
境 消 防 署	本 署	38			2	4	9	12	4	7	
	弓 浜 出 張 所	19				2	6	6	3	2	
大 消 防 署	本 署	24			2	4	6	7	3	2	
	中 山 出 張 所	19				2	7	7	1	2	
江 消 防 署	本 署	24			2	5	7	7	1	2	
	生 山 出 張 所	19				2	6	8	1	2	
合 計		292	1	2(1)	14	45	77	89	28	33	3(1)

() は兼務

消 防 局

消 防 局 長	消 防 正 監	中 田 正 男
次 長	消 防 監	種 原 正 隆
次 長 兼 総 務 課 長	消 防 監	戸 田 木 克 澄
次 長 兼 米 子 消 防 署 長	消 防 司 令 長	浦 足 武 本 越 夫
予 防 課 長	消 防 司 令 長	武 船 前 寺 橋 三 田 木 加 大
警 防 課 長	消 防 司 令 長	武 船 前 寺 橋 三 田 木 加 大
指 令 課 長	消 防 司 令 長	武 船 前 寺 橋 三 田 木 加 大
消 防 局 主 査	消 防 司 令 長	武 船 前 寺 橋 三 田 木 加 大
消 防 局 主 査	消 防 司 令 長	武 船 前 寺 橋 三 田 木 加 大
消 防 局 主 査	消 防 司 令 長	武 船 前 寺 橋 三 田 木 加 大
消 防 局 主 査	消 防 司 令 長	武 船 前 寺 橋 三 田 木 加 大
消 防 局 主 査	消 防 司 令 長	武 船 前 寺 橋 三 田 木 加 大
消 防 局 主 査	消 防 司 令 長	武 船 前 寺 橋 三 田 木 加 大

消 防 署

米 子 消 防 署 長	消 防 監	浦 木 昇
境 港 消 防 署 長	消 防 司 令 長	内 田 幸 治
大 山 消 防 署 長	消 防 司 令 長	桑 名 野 靖
江 府 消 防 署 長	消 防 司 令 長	菅 野 靖

(2)職員在職年数

平成19年4月1日現在

	計	消 正	防 監	消 防 監	消 防 司令長	消 防 司令	消 防 司令補	消 防 士	防 長	消 防 副士長	消 防 士	事 務 吏 員
人 数	292		1	2	14	45	77	89	28		33	3
平均年数	23		39	38	33	30	29	22	13		5	20
1年未満	2										2	
1年	2										2	
2年	8										8	
3年	1										1	
4年	3										3	
5年	3										3	
6年	7										7	
7年												
8年	1										1	
9年	1										1	
10年	6										5	1
11年												
12年	3									3		
13年	11									11		
14年	14							2	12			
15年	4							2	2			
16年	11							11				
17年	7							6				1
18年	11							11				
19年	3							3				
20年	5							5				
21年	4							4				
22年	4							4				
23年	4						1	3				
24年	3							3				
25年	12						3	9				
26年	9					1	3	5				
27年	13					1	8	4				
28年	14						8	6				
29年	4						4					
30年	96				3	32	50	11				
31年	10				2	8						
32年												
33年	1											1
34年	5				3	2						
35年	5				4	1						
36年	1				1							
37年	2			1	1							
38年												
39年	2		1	1								
40年												
41年												
42年												
43年												
44年												
45年												

(3) 職員年齢構成

平成19年4月1日現在

	計	消 正 防 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 士 防 長	消 防 副 士 長	消 防 士	事 務 員
人 数	292	1	2	14	45	77	89	28	33	3
平均年齢	43.9	59.0	58.0	53.5	52.3	50.0	42.3	32.2	27.4	40.6
18歳未満										
18歳										
19歳										
20歳										
21歳	2								2	
22歳										
23歳										
24歳	2								2	
25歳	5								5	
26歳	5								5	
27歳	3								3	
28歳	5								5	
29歳	5								5	
30歳	3							1	2	
31歳	6							6		
32歳	12							12		
33歳	6							4	2	
34歳	13						7	3	2	1
35歳	7						5	2		
36歳	9						8			1
37歳	6						6			
38歳	6						6			
39歳	3						3			
40歳	3						3			
41歳	2						2			
42歳	5					1	4			
43歳	5					1	4			
44歳	6				1		5			
45歳	7					5	2			
46歳	8					1	7			
47歳	8					3	5			
48歳	23					14	9			
49歳	15				3	9	3			
50歳	15			1	6	5	3			
51歳	20			1	6	11	2			
52歳	23			3	6	10	3			1
53歳	25			4	10	11				
54歳	10			2	4	2	2			
55歳	6				3	3				
56歳	7				6	1				
57歳	3		1	2						
58歳	1			1						
59歳	2	1	1							
60歳										

(4) 職員研修

ア. 委託研修

平成19年3月31日現在

年度別 教育内容		計	61 年以	62 年	63 年	元 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年	10 年	11 年	12 年	13 年	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	
消 防 大 学 校	本 科	10	4			1			1			1			1			1			1			
	幹 部 研 修 科	1					1																	
	上 級 幹 部 科	1	1																					
	予 防 科	13	9		1						1				1		1							
	警 防 科	12	6		1					1		1	1					1					1	
	救 急 科	7	3	1				1															2	
	救 助 科	5				1	1			1					1			1						
	危 険 物 (保 安) 科	2	1																					1
	指 導 者 養 成 科	2	2																					
	火 災 原 因 調 査 科	2	2																					
	機 械 技 術 者 養 成 科	1	1																					
	火 災 調 査 科	1																					1	
	火 災 調 査 講 習 会	5					1		1							1	1	1						
	危 機 管 理 セ ミ ナ ー	3																			1	1	1	
	緊 急 消 防 援 助 隊 教 育 科 (N B C 対 策 コ ー ス)	1																						1
	緊 急 消 防 援 助 隊 教 育 科 (部 隊 指 揮 コ ー ス)	1																						1
	防 災 講 習 会	1											1											
危 機 管 理 講 習 会	1												1											
大 阪 市 消 防 学 校	22	22																						
神 戸 市 消 防 学 校	10	9																		1				
名 古 屋 市 消 防 学 校	4	4																						
島 根 県 消 防 学 校	4	3																				1		
救 急 救 命 東 京 研 修 所	30						1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	3
救 急 救 命 九 州 研 修 所	24											2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	1
救 急 救 命 土 業 務 実 地 修 練	10								1	1	1	1	1	1	1			1			1	1		
海 上 自 衛 隊 第 一 術 科 学 校	4												2	1	1									
独 立 行 政 法 人 海 洋 研 究 開 発 機 構 (潜 水 技 術 研 修)	9																	2	2	2	1	1	1	
陸 上 自 衛 隊 化 学 学 校	1															1								
鈴 鹿 サ ー キ ッ ト 交 通 教 育	6																	1	1	1	1	1	1	
鳥 取 県 消 防 学 校	初 任 教 育	118	17	5	4	11	7	11	4	15	11	3		5	1	1		7	3	3		8	2	
	現 任 教 育	88	50	13	10	5	10																	
	幹 部 教 育	107	12	5	5	8	5	5	5	4	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	
	課 ・ 署 長 研 修 会	5																			5			
	救 急 I 課 程	109	32		9		12			15	15	15	11											
	救 急 II 課 程	180						11	11	11	11	11	25	20	20	8	12	7	21	12				
	救 急 科	46														6	4	7		12	11		6	
	救 急 実 務 研 修 会	14														3		3	3	5				
	救 急 救 命 士 講 習 (挿 管)	42																				8	22	12
	危 険 物 科	21	6				5		5							5								
	救 助 科	75	5	5		10		5	5				5	5	5		5	5	5	5	5	5	5	
	特 殊 災 害 科	14																				5	5	4
	無 線 通 信 科	38	11	8			5						14											
	機 関 科	16			6			5							5									
	火 災 調 査 科	49			5				5				5	4	5	5		5	5	5		5		
	電 気 設 備 科	14				9		5																
	予 防 査 察 科	24				10					4											5	5	
警 防 科	23									4	5			4					5		5			
予 防 科	20						5			5					5					5				
梯 子 自 動 車 講 習 会	19	7								12														

局内教養研修及び訓練

		研修内容	回数	延派遣数	
研	予防	火災原因調査研修	1	10	
		予防実務研修 (一般予防、消防用設備規制等研修)	1	10	
		予防実務研修(危険物・火薬類等規制研修)	1	10	
	警防	航空研修	2	10	
		特殊災害研修(NBC災害)	1	15	
		警防研修(指揮統制)	2	30	
		車両整備研修	1	4	
		安全運転研修会	1	18	
	救助	救助研修	1	20	
	水難	水難救助実務研修	36	108	
	修	救急	救急救命士気管内挿管実習	12	12
			病院研修(各科研修)	28	28
			病院研修(基幹病院研修)	28	28
			病院研修(症例検討会)	3	15
病院研修(実例研修)			2		20
救急救命研修所入所前研修			2	2	
事後検証会			12	30	
急		救急技術指導者研修	12	84	
		MC協議会	6	18	
		MC協議会(検証部会)		3	3
		職員除細動講習	1	20	
		応急手当指導員再講習(AED講習)	1	30	
一般		一般教養(IT研修)システム主任者	1	20	
	一般教養(公務上のトラブル対応研修)	0	0		
	一般教養(同和教育)	1	45		
	消防局初任者研修	1	8		
訓	警防	緊急消防援助隊合同訓練 (静岡県)(香川県)	1	18	
		航空機災害訓練(大規模災害)	1	20	
		県防災訓練(米子市)	1	20	
		県防災へり合同訓練	4	20	
		鳥取県消防長会合同訓練(NBC含む)	1	20	
		航空隊員派遣前訓練	1	1	
		普通機関員養成訓練	1	4	
		大型機関員養成訓練	1	3	

練		N B C 災害対応訓練	1	20
	救助	特別救助隊訓練	4	60
		都市型救助基礎訓練（外傷処置含む）	2	32
	水難	水難救助隊員基礎教育訓練	1	3
		水難救助隊再教育訓練	2	10
		水難救助訓練（海保合同訓練含む）	9	135
	救急	救急隊員局統一訓練（A C L S）	2	20
		消防局救急技術指導会	1	40

各種学会参画

イ. 局内教養研修及び訓練

平成19年3月31日現在

研 修 内 容	研 修 回 数	延 人 員
予 防 研 修	3	30
警 防 研 修 及 び 訓 練	19	203
救 助 研 修 及 び 訓 練	7	112
水 難 救 助 研 修 及 び 訓 練	48	256
救 急 研 修 及 び 訓 練	113	350
一 般 教 養 研 修	3	73
計	193	1024

- 日本臨床救急医学会 2名
- 日本救急医学会中国四国地方会 6名
- 日本集団災害医学会 5名
- 全国救急隊員シンポジウム 8名
- 山陰救急医学会 32名

(5)職員採用試験(19年4月1日採用)

第 1 次 教 養 試 験 } 平成18年 10月 1日 消 防 局
 体 力 試 験 }

第 2 次 適 性 試 験 } 平成18年 11月 1日 消 防 局
 作 文 試 験 }
 面 接 試 験 }

	総 数	高 校 卒	短 大 卒	大 学 卒
応 募 者	110	39	36	35
合 格 者	2			2

消防予算の状況

消 防 予 算 の 状 況

(1) 平成19年度当初予算額の対前年度比較

(単位:千円)

科	目	平成19年度予算	平成18年度予算	比 較 増 減
(款) 消 防 費		2,952,349	3,092,735	△ 140,386
(項) 消 防 費		2,952,349	3,092,735	△ 140,386
(目) 1 常備消防費		2,733,155	2,966,530	△ 233,375
(節) 1 報	酬	1,620	1,620	0
2 給	料	1,247,818	1,294,611	△ 46,793
3 職 員 手 当 等		860,873	906,339	△ 45,466
4 共 済 費		351,707	357,271	△ 5,564
5 災 害 補 償 費		10	10	0
7 賃 金		1,724	1,717	7
8 報 償 費		1,776	2,203	△ 427
9 旅 費		2,437	3,231	△ 794
10 交 際 費		30	30	0
11 需 用 費		86,657	90,069	△ 3,412
12 役 務 費		26,430	26,302	128
13 委 託 料		49,648	50,209	△ 561
14 使 用 料 及 び 貸 借 料		16,633	14,952	1,681
16 原 材 料 費		200	200	0
18 備 品 購 入 費		1,330	1,530	△ 200
19 負 担 金 補 助 及 び 交 付 金		16,077	17,015	△ 938
22 補 償 補 填 及 び 賠 償 費		300	300	0
25 積 立 金		65,076	196,279	△ 131,203
27 公 課 費		2,809	2,642	167
(目) 2 消防施設費		219,194	126,205	92,989
(節) 11 需 用 費		11,951	12,830	△ 879
13 委 託 料		0	0	0
15 工 事 請 負 費		119,500	5,230	114,270
18 備 品 購 入 費		87,047	107,200	△ 20,153
19 負 担 金 補 助 及 び 交 付 金		696	945	△ 249

(2) 平成19年度当初予算額の財源内訳

(単位:千円)

区 分 科 目	予 算 額	財 源 内 訳			
		特定財源			一般財源
		国・県支出金	地 方 債	そ の 他	
(款) 消 防 費	2,952,349	21,913	164,700	71,635	2,694,101
(項) 消 防 費	2,952,349	21,913	164,700	71,635	2,694,101
(目) 常備消防費	2,733,155	7,425	0	71,480	2,654,250
(目) 消防施設費	219,194	14,488	164,700	155	39,851

(3) 平成18年度決算額

(単位:円)

科 目	当初予算額	予算現額	決算見込額
(款) 消 防 費	3,092,735,000	3,043,280,000	3,017,766,894
(項) 消 防 費	3,092,735,000	3,043,280,000	3,017,766,894
(目) 1 常備消防費	2,966,530,000	2,913,556,000	2,888,394,652
(節) 1 報 酬	1,620,000	1,620,000	1,620,000
2 給 料	1,294,611,000	1,294,421,000	1,294,414,854
3 職 員 手 当 等	906,339,000	848,659,000	828,936,522
4 共 済 費	357,271,000	362,992,000	362,892,393
5 災 害 補 償 費	10,000	10,000	0
7 賃 金	1,717,000	1,707,000	1,706,950
8 報 償 費	2,203,000	2,559,000	2,253,600
9 旅 費	3,231,000	3,231,000	2,828,414
10 交 際 費	30,000	30,000	0
11 需 用 費	90,069,000	92,869,000	91,058,945
12 役 務 費	26,302,000	25,652,000	24,848,656
13 委 託 料	50,209,000	48,179,000	47,995,351
14 使 用 料 及 び 貸 借 料	14,952,000	14,952,000	14,526,214
16 原 材 料 費	200,000	200,000	195,528
18 備 品 購 入 費	1,530,000	1,530,000	1,402,645
19 負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	17,015,000	16,896,000	16,062,512
22 補 償 補 填 及 び 賠 償 費	300,000	300,000	58,768
25 積 立 金	196,279,000	195,031,000	195,031,000
27 公 課 費	2,642,000	2,718,000	2,562,300
(目) 2 消防施設費	126,205,000	129,724,000	129,372,242
(節) 11 需 用 費	12,830,000	17,558,000	17,554,411
13 委 託 料	0	0	0
15 工 事 請 負 費	5,230,000	4,320,000	4,304,895
18 備 品 購 入 費	107,200,000	106,901,000	106,877,904
19 負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	945,000	945,000	635,032

消 防 施 設

消 防 施 設

(1) 消防庁舎の位置・構造

平成19年4月1日現在

名 称	所 在 地	構 造	建物延面積	敷地面積
消 防 局		鉄骨鉄筋コンクリート造6階建	3,972.30	
主 訓 練 塔	米子市両三柳5,452番地	鉄骨鉄筋コンクリート造7階建	637.00	6,865.23
副 訓 練 塔		鉄骨造2階建	141.00	
米 子 消 防 署	米子市富士見町 1丁目103番地-1	鉄筋コンクリート造3階建	2,305.35	2,211.85
米 子 消 防 署 皆 生 出 張 所	米子市皆生5丁目 8番5号	鉄筋コンクリート造平屋建	489.08	1,015.04
米 子 消 防 署 南 部 出 張 所	西伯郡南部町 清水川3-1	〃	285.81	749.18
米 子 消 防 署 伯 耆 出 張 所	西伯郡伯耆町 溝口20-4	〃	281.67	900.96
境 港 消 防 署	境港市中野町2,116	鉄筋コンクリート造2階建	1,565.70	5,560.00
境 港 消 防 署 弓 浜 出 張 所	米子市大篠津町 2,913-1	鉄筋コンクリート造平屋建 鉄骨造平屋建（自動車車庫）	199.88 52.00	746.00
大 山 消 防 署	西伯郡大山町 末吉403-2	鉄筋コンクリート造平屋建 鉄骨造2階建	503.50	1,884.87
大 山 消 防 署 中 山 出 張 所	西伯郡大山町長野 880-3	鉄筋コンクリート造平屋建 （一部鉄骨造）	330.29	1,136.38
江 府 消 防 署	日野郡江府町大字 武庫1,390-3	鉄筋コンクリート造 鉄骨造2階建	513.66	1,051.00
江 府 消 防 署 生 山 出 張 所	日野郡日南町 生山349-1	鉄筋コンクリート造平屋建	229.70	782.20
古 峠 山 無 線 中 継 所	西伯郡伯耆町二部字 間地山2,143-1	鉄骨造平屋建鉄板章 付属設備（送受信塔）鉄骨造 16.5m	28.73	100.00
日 南 前 進 基 地	日野郡日南町萩原字 原林490-2	鉄骨造平屋建ALC版 付属設備（送受信塔）鉄骨造 15m	6.18	25.00

(2) 消防吏員待機宿舎概要

名 称	所 在 地	構 造	建物延面積	敷地面積
生山北寮（独身寮） 消防待機宿舎北寮	日野郡日南町 生山349	鉄筋コンクリート造平屋建	107.00	365.14
生山南寮（世帯寮） 消防待機宿舎南寮	日野郡日南町 生山454	鉄筋コンクリート造平屋建 （3世帯）	147.00	380.58

(3)消防車輛等配置数

平成19年4月1日現在

推 移	車 種 別		総 数	消 防 ホ ン プ 自 動 車	水 槽 付 消 防 ホ ン プ 自 動 車	化 学 消 防 自 動 車	は し ご 付 消 防 自 動 車	救 助 工 作 車	高 発 泡 車	救 急 自 動 卓	救 急 救 命 車 (高規格)	指 揮 車	査 察 ・ 広 報 車	作 業 車	消 防 艇	電 源 ・ 照 明 車	資 機 材 搬 送 車	そ の 他 車 輛	
昭 51.	5.	1	23	8	3	2	1			5		1	2	1					
昭 51.	10.	1	28	10	3	2	1			6		2	3	1					
昭 52.	4.	1	36	15	3	2	2			7		2	4	1					
昭 54.	4.	1	51	21	4	3	2	1		8		2	9	1					
昭 57.	4.	1	58	21	4	3	2	2		10		2	13	1					
昭 62.	4.	1	56	19	4	2	2	2		11		3	12	1					
昭 63.	4.	1	59	19	4	2	2	2		11		5	10	1		1	1	1	
平 元.	4.	1	60	20	4	2	2	2		11		5	10	1		1	1	1	
平 2.	4.	1	61	20	4	2	2	2		12		5	10	1		1	1	1	
平 3.	4.	1	67	21	4	2	2	2		12		5	15	1		1	1	1	
平 4.	4.	1	68	21	4	3	2	2		12		5	16	1		1		1	
平 5.	4.	1	70	21	4	3	2	2		12	1	5	17	1		1		1	
平 6.	4.	1	72	21	4	3	2	2		12	1	5	19	1		1		1	
平 7.	4.	1	75	21	4	3	2	2		12	2	5	21	1		1		1	
平 8.	4.	1	76	21	4	3	2	3		12	2	5	21	1		1		1	
平 9.	4.	1	78	21	4	3	3	3		12	2	5	22	1		1		1	
平 10.	4.	1	80	21	4	3	3	3		11	3	5	22	1		1	1	2	
平 11.	4.	1	80	21	4	3	3	3		10	4	5	21	1		1	1	3	
平 12.	4.	1	81	21	4	3	3	3		9	5	5	22	1		1	1	3	
平 13.	4.	1	81	21	4	3	3	3		9	5	5	21	1		1	1	4	
平 14.	4.	1	81	21	4	3	3	3		9	5	5	21	1		1	1	4	
平 15.	4.	1	81	21	4	3	3	3		9	5	5	21	1		1	1	4	
平 16.	4.	1	81	21	4	3	3	3		7	7	5	21	1		1	1	4	
平 17.	4.	1	81	21	4	3	3	3		5	9	5	21	1		1	1	4	
平 18.	4.	1	81	21	5	3	3	3		3	11	5	21	1		1	1	4	
平 19.	4.	1	82	20	6	3	3	3		2	12	5	21	1		1	1	4	
平 19 ・ 4 ・ 1	消 防 局		13	2						2		1	4	1				3	
	米消 防 子署	本 署	14	4	1	1	1				2	1	2				1	1	
		皆生出張所	7	1	1		1	1			1		2						
		南部出張所	5	2							1		2						
		伯耆出張所	5	1	1						1		2						
	境消 防 港署	本 署	12	2	1	2	1	1			2	1	1						1
		弓浜出張所	5	1	1						1		2						
	大消 防 山署	本 署	5	1	1						1	1	1						
		中山出張所	5	2							1		2						
	江消 防 府署	本 署	6	2				1			1	1	1						
生山出張所		5	2							1		2							
計			82	20	6	3	3	3	0	2	12	5	21	1	0	1	1	4	

(4) 消防車両概況

平成 19 年 4 月 1 日 現在

所属	車 号	登 録 番 号	車 名	機 装	購 入 年 月 日	摘 要
消 防 局	1 号 車	鳥取88に 812	日野	CD-1	平成 2・12・14	
	2 号 車	鳥取88に3128	三菱	CD-1・A2	平成 9・ 1・31	
	救 急 1 号 車	鳥取88に2045	トヨタ	2B・4WD	平成 6・10・13	寄贈 日消
	救 急 2 号 車	鳥取88に4678	トヨタ	2B・4WD	平成 11・3・31	寄贈 日消
	指 揮 車	鳥取800さ4412	ニッサン		平成 19・3・29	
	広 報 1 号 車	鳥取88す 988	ニッサン		平成 5・ 8・30	寄贈 日消
	広 報 2 号 車	鳥取45せ3407	マツダ		平成 6・ 5・26	
	広 報 3 号 車	鳥取500ね 325	ニッサン		平成 18・11・24	米子危保協会
	広 報 5 号 車	鳥取88に1311	トヨタ		平成 4・ 9・16	寄贈 日本防火協会
	救 急 指 導 車	鳥取88に1409	三菱	救急普及啓発車	平成 4・12・21	
	訓 練 指 導 車	鳥取88に3510	マツダ	消火通報指導車	平成 9・ 8・20	寄贈 日本宝くじ協会
	局 長 車	鳥取300た1821	ニッサン		平成 16・5・27	
	作 業 車	鳥取45さ7145	トヨタ	1.5t	平成 元・11・ 2	
米 子 消 防 署	1 号 車	鳥取800さ 654	三菱	CD-1・A2	平成12・ 1・24	日本ドライケミカル
	2 号 車	鳥取88に4492	いすゞ	CD-1・A2	平成11・ 1・25	吉谷機械
	3 号 車	鳥取88に2581	三菱	CD-1・A2	平成 8・ 1・22	吉谷機械
	5 号 車	鳥取88に 294	三菱	CD-2・A2	平成 元・ 2・25	吉谷機械
	タ ン ク 車	鳥 88に4491	日野	1-A	平成11・ 1・25	吉谷機械
	照 明 車	鳥 88な2329	トヨタ		昭和62・ 9・ 3	寄贈 日消
	化 学 車	鳥 88や 851	ニッサン	4型・A2	昭和55・12・26	吉谷機械
	梯 子 車	鳥取800は110	ニッサン	40m級	平成13・ 1・16	森田ポンプ
	救 急 救 命 1 号 車	鳥取800さ3901	トヨタ	高規格救急車	平成17・11・20	
	救 急 救 命 2 号 車	鳥取800さ 763	トヨタ	高規格救急車	平成12・ 3・23	寄贈 損害保険
	指 揮 車	鳥取88に4603	トヨタ		平成11・ 3・10	
	資 材 搬 送 車	鳥取88に3730	三菱	2t	平成 9・12・25	
	広 報 車	鳥取800さ2987	ニッサン		平成15・10・15	
米 子 査 察 車	鳥取40ほ8366	ホンダ		平成 3・ 7・12		
皆 生 出 張 所	1 号 車	鳥取88に1777	三菱	CD-1・A2	平成 6・ 1・26	森田ポンプ
	タ ン ク 車	鳥 800さ2061	日野	1-B	平成14・ 1・31	吉谷機械
	救 助 工 作 車	鳥取88ゆ 637	日野	Ⅲ型	平成 8・ 3・28	森田ポンプ
	梯 子 車	鳥取88に 476	三菱	15m級	平成 元・10・26	森田ポンプ
	救 急 救 命 車	鳥取800さ3939	トヨタ	高規格救急車	平成17・12・21	寄贈 損害保険
	広 報 車	鳥取800さ2543	ニッサン		平成14. 12. 20	
	皆 生 査 察 車	鳥取40め3582	スズキ		平成 6・ 5・10	
南 部 出 張 所	1 号 車	鳥取88に1778	三菱	CD-1・A2	平成 6・ 1・26	森田ポンプ
	2 号 車	鳥取88に3129	三菱	CD-1・A2	平成 9・ 1・31	森田ポンプ
	救 急 救 命 車	鳥取800さ3041	ニッサン	高規格救急車	平成15・11・17	
	広 報 車	鳥取88す 969	マツダ		平成 5・ 6・ 3	
	南 部 査 察 車	鳥取40め3583	スズキ		平成 6・ 5・10	

所属	車 号	登 録 番 号	車 名	機 装	購 入 年 月 日	摘 要
伯耆出張所	1 号 車	鳥取88に2157	三菱	CD-1・A2	平成 7・ 2・10	森田ポンプ
	タンク車	鳥取800は 292	日野	1-A	平成18・ 2・28	吉谷機械
	救急救命車	鳥取800さ3508	トヨタ	高規格救急車	平成16・11・29	
	広 報 車	鳥取88す 968	マツダ		平成 5・ 6・ 3	
	伯耆査察車	鳥取40ほ8367	ホンダ		平成 3・ 7・12	
境 港 消 防 署	1 号 車	鳥取800さ3555	日野	CD-1・A2	平成17・ 1・12	吉谷機械
	2 号 車	鳥取88に4493	いすゞ	CD-1・A2	平成 11・1・25	消防庁
	タンク車	鳥取800さ 656	日野	1-B	平成12・ 1・24	日本ドライケミカル
	救助工作車	鳥取800は 51	日野	II型	平成12・ 2・21	森田ポンプ
	ボートトレーラ	鳥取800る 15	イーシーホラー		平成12・ 2・21	森田ポンプ
	化学1号車	鳥取88は107	日野	IV型・A1	平成13・ 2・28	
	化学2号車	鳥取88に 914	三菱	1型・A1	平成 3・ 4・24	寄贈 損害保険
	梯子車	鳥取88ゆ 689	日野	25m級	平成 8・12・19	森田ポンプ
	救命1号車	鳥取800さ4415	ニッサン	高規格車 4WD	平成 19・3・27	防衛庁
	救命2号車	鳥取88に2216	トヨタ	高規格車4WD	平成 7・3・27	寄贈 損保保険
	指 揮 車	鳥取800さ2633	ニッサン		平成15・ 3・20	寄贈 日消
	境港査察車	鳥取40ほ2020	三菱		平成 3・ 2・22	
	弓浜出張所	1 号 車	鳥取88に2215	三菱	CD-1・A2	平成 7・ 3・27
タンク車		鳥取88に3633	日野	1-B	平成 9・11・ 7	吉谷機械
救急救命車		鳥取800さ3595	トヨタ	高規格救急車	平成17・ 2・23	
広 報 車		鳥取88す1119	マツダ		平成 6・ 5・25	
弓浜査察車		鳥取80あ 653	ダイハツ	緊急車	平成 8・12・25	
大山消防署	1 号 車	鳥取88に2580	三菱	CD-1・A2	平成 8・ 1・22	吉谷機械
	タンク車	鳥取800は 337	日野	CD-1	平成19・ 2・23	吉谷機械
	救急救命車	鳥取88に3544	トヨタ	高規格車 4WD	平成 9・ 9・18	
	指 揮 車	鳥取800さ3175	ニッサン		平成16・ 3・17	
	広 報 車	鳥取800さ2988	ニッサン		平成15・10・15	
中山出張所	1 号 車	鳥取88に3638	三菱	CD-1・A2	平成 9・11・ 7	吉谷機械
	2 号 車	鳥取88に1099	三菱	CD-1・A2	平成 4・ 1・10	吉谷機械
	救急救命車	鳥取800さ1844	ニッサン	高規格	平成13・11・19	
	広 報 車	鳥取80あ1132	ダイハツ		平成16・ 3・ 5	
	中山査察車	鳥取40む2123	三菱		平成 5・ 5・24	
江府消防署	1 号 車	鳥取88に2579	三菱	CD-1・A2	平成 8・ 1・22	吉谷機械
	2 号 車	鳥取88に 811	三菱	CD-1・A2	平成 2・12・14	吉谷機械
	救助工作車	鳥取800さ2568	日野	II型	平成15・ 3・20	
	救急救命車	鳥取88に4487	ニッサン	高規格車4WD	平成11・ 1・14	寄贈 損害保険
	指 揮 車	鳥取800さ3174	ニッサン		平成16・ 3・17	
	江府査察車	鳥取40ほ2022	三菱		平成 3・ 2・22	
生山出張所	1 号 車	鳥取88に2668	三菱	CD-1・A2	平成 8・ 3・26	吉谷機械
	2 号 車	鳥取88に1098	三菱	CD-1・A2	平成 4・ 1・10	吉谷機械
	救急救命車	鳥取880さ1286	トヨタ	高規格・4WD	平成 13・ 1・15	トヨタテクノ
	広 報 車	鳥取80あ1133	ダイハツ		平成16・ 3・ 5	
	生山査察車	鳥取40む2124	三菱		平成 5・ 5・24	

消防ポンプ自動車20 タンク車6 照明車1 救助工作車3 化学車3 梯子車3

救急車14(内高規格救急車11) 指揮車5 広報車14 査察車8 作業車1 救急指導車1

訓練指導車1 資機材搬送車1 局長車1 ボートトレーラー1

総数82台

(5) 通信施設

指令施設

指令台	3式	各台は、指令用ディスプレイ、 地図用ディスプレイ、 支援情報ディスプレイを装備
指揮台	1式	
無線統制台	1式	
署所端末装置	12式	
各種表示盤	1式	支援情報表示盤・車両運用表示盤
指令用ホストコンピューターシステム	1式	
発信地照会端末装置	1式	

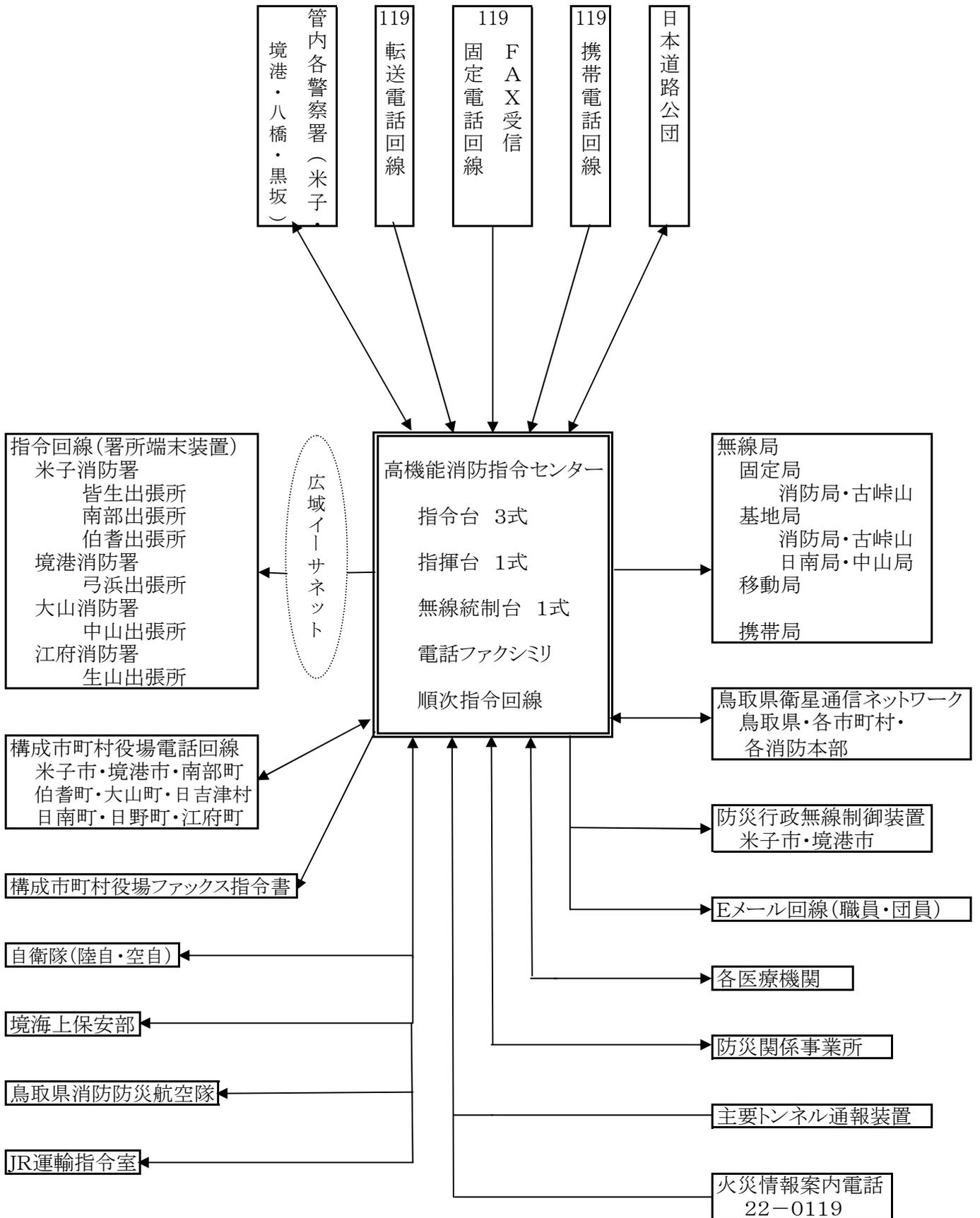
有線通信設備

119番専用回線	15回線	
固定電話回線 (ISDN回線)	12回線	IP電話重畳・FAX119
固定電話回線 (アナログ回線)	1回線	
携帯電話回線	2回線	
一般加入電話	23回線	
火災情報案内電話	10回線	
専用線		
署所指令専用線	10回線	
防災関係機関専用線	5回線	
広域イーサネット		
広域事務局・広域各施設		事務局・リサイクルプラザ・エコスラグセンター・最終処分場 米子浄化場・白浜浄化場・桜の苑
消防局・10署所		消防局・米子消防署・皆生(出)・南部(出)・伯耆(出)・境港消防署・弓浜(出)・大山消防署・中山(出)・江府消防署・生山(出)

無線通信設備

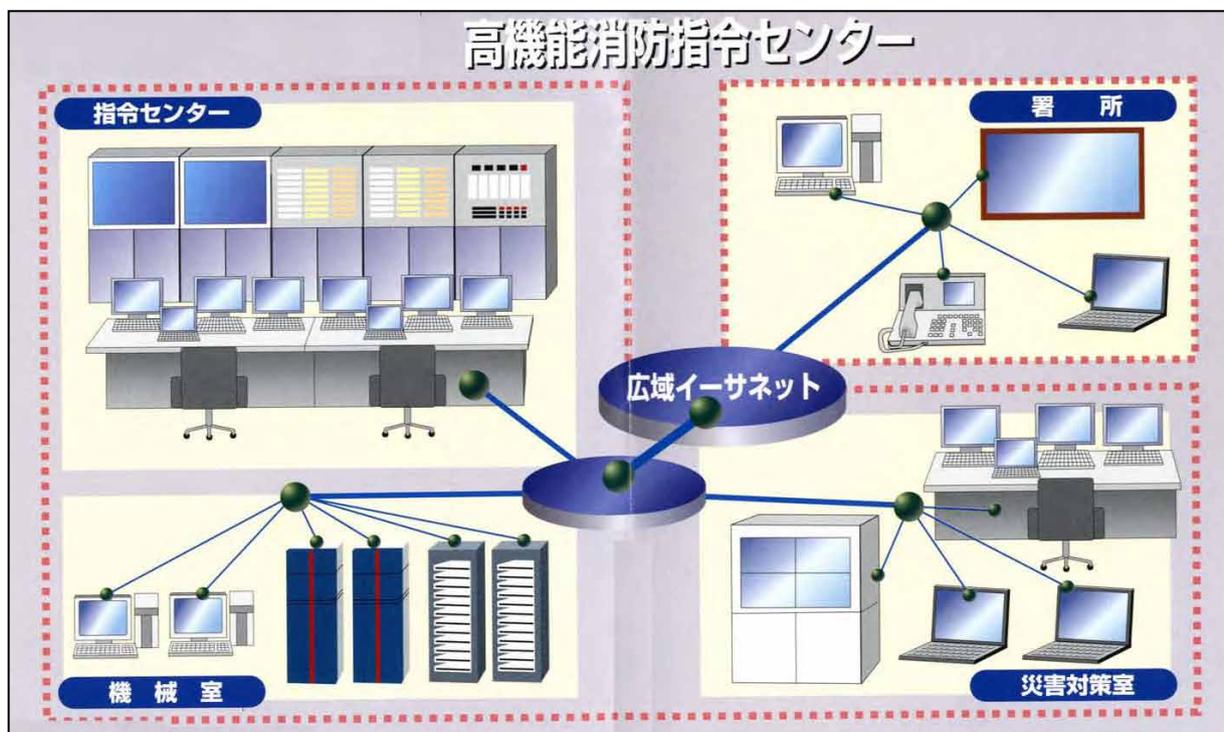
固定局	VSAT地球局	1局	鳥取県衛星通信ネットワーク	
	多重無線			
	消防局	1局		
	古峠山中継所	1局		
基地局	消防局	1局		
	古峠山中継所	1局		
	中山前進基地	1局		
	日南前進基地	1局		
陸上移動局	消防波	63局		
	救急波	15局		
	携帯局	5W	77局	
		10W	4局	

鳥取県西部消防局通信系統図





指令センター全景



高機能消防指令センター ネットワーク構成イメージ

予

防

予 防

(1) 防火対象物の現況

平成19年3月31日現在

種 別	(1)		(2)			(3)		(4)	(5)		(6)			(7)	(8)	(9)	
	イ	ロ	イ	ロ	ハ	イ	ロ		イ	ロ	イ	ロ	ハ			イ	ロ
対 象 物 種 別	劇場、映画館、演芸場又は観覧場	公会堂又は集会場	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	遊戯場又はダンスホール	性風俗関連特殊営業店舗	待合、料理店その他これらに類するもの	飲食店	百貨店、マーケット、店舗又は展示場	旅館、ホテル、宿泊所その他これらに類するもの	寄宿舎、下宿又は共同住宅	病院、診療所、又は助産所	老人、救護、更正、児童福祉施設等	幼稚園、盲ろう学校又は養護学校	小中学校、高校、大学、各種学校等	図書館、博物館、美術館等	蒸気浴場、熱気浴場等	イに掲げる以外の公衆浴場
延べ面積150㎡以上のもの	15	154	4	30		5	208	459	266	1,810	216	222	29	363	29	12	8
防火管理者を選任すべきもの	15	139	3	24		4	181	322	157	215	84	164	22	109	16	6	2

種 別	(10)	(11)	(12)		(13)		(14)	(15)	(16)		16の2	16の3	(17)	(18)	
			イ	ロ	イ	ロ			イ	ロ					
対 象 物 種 別	停車場、船舶又は航空機の発着場	神社、寺院、教会等	工場又は作業場	映画スタジオ又はテレビスタジオ	自動車車庫又は駐車場	飛行機又は回転翼航空機の格納庫	倉庫	前各号に該当しない事業所	特防の存する複合用途防火対象物	イに掲げる以外の複合用途防火対象物	地下街	準地下街	重要文化財・重要美術品等の建築物	延長五十メートル以上のアーケード	合 計
延べ面積150㎡以上のもの	5	144	1,275	1	125	5	979	1,021	374	68			21	10	7,858
防火管理者を選任すべきもの	2	85	116				10	231	268	18			1		2,194

(2) 各種届出事務処理の状況

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

項目	防火対象物使用開始届	消防計画	防火管理者選解任届	火災とまぎらわしい行為	催物開催	液化石油ガス等	少量危険物	指定可燃物	水素ガス	変・発・蓄電池	ネオン管灯設備	炉・厨房・ボイラー等	煙火打上げ	罹災証明	消防用設備等点検結果報告書	防火対象物点検結果報告	消防法法令適合通知	喫煙等承認申請
受理数	230	444	341	133	3	51	63	30		98	2	43	72	142	1,726	84	17	71

(3) 予防査察件数

防火対象物	852
危険物施設	353
一般住宅	5

(4) 防火指導等状況

訓練指導 (防火訓練)	防火対象物	333
	自主防災組織	115
防火広報		675

(5) 建築同意の用途別事務処理状況

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

区 分		合 計	新 築	増 築	その他
1	イ	劇 場 ・ 映 画 館 等	1	1	
	ロ	公 会 堂 又 は 集 会 場	7	5	2
2	イ	キ ャ バ レ ー 等			
	ロ	遊 戯 場 等	5		4
	ハ	性 風 俗 関 連 特 殊 営 業 店 舗			1
3	イ	待 合 ・ 料 理 店 等	1	1	
	ロ	飲 食 店	6	5	1
4		百 貨 店 ・ 店 舗 等	38	34	4
5	イ	旅 館 ・ ホ テ ル	1		1
	ロ	共 同 住 宅 ・ 寄 宿 舎	53	45	8
6	イ	病 院 ・ 診 療 所 等	6	3	1
	ロ	老 人 ・ 児 童 福 祉 施 設 等	18	5	4
	ハ	幼 稚 園 ・ 養 護 学 校 等	3	2	1
7		学 校	4	2	1
8		図 書 館 ・ 美 術 館			
9	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場 等	2	1	1
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場	3	1	1
10		車 両 の 停 車 場 等	1		1
11		神 社 ・ 寺 院 等	4		3
12	イ	工 場 ・ 作 業 場	39	21	14
	ロ	テ レ ビ ス タ ジ オ 等			
13	イ	車 庫 ・ 駐 車 場	14	12	
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫			2
14		倉 庫	62	57	4
15		前各号に該当しない事業所	57	49	4
16	イ	特別防火対象物が存する 複合用途防火対象物	8	4	4
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	1	1	
17		重 要 文 化 財			
18		50m 以上 の ア ー ケード			
一 般 住 宅		専 用 住 宅	55	41	11
	併 用	店 舗 付	2	1	1
		そ の 他	2	1	1
	長	屋 住 宅	63	63	
	昇 降 機	1	1		
合	計	457	356	57	44

(6) 危険物施設の現況 (地区別施設件数)

平成19年3月31日現在

	合 計	米 子 市	境 港 市	日 吉 津 村	大 山 町	南 部 町	伯 耆 町	日 南 町	日 野 町	江 府 町
製 造 所	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0
屋内貯蔵所	137	86	28	1	6	7	3	3	2	1
屋外タンク貯蔵所	122	28	79	0	4	2	4	3	2	0
屋内タンク貯蔵所	30	13	4	0	7	1	3	1	1	0
地下タンク貯蔵所	480	189	74	3	104	18	57	13	12	10
簡易タンク貯蔵所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
移動タンク貯蔵所	242	82	132	1	6	5	4	6	3	3
屋外貯蔵所	64	12	45	1	4	0	0	1	1	0
給油取扱所	231	107	41	8	21	7	16	18	4	9
販売取扱所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
移送取扱所	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
一般取扱所	160	80	38	1	11	5	10	4	5	6
合 計	1,469	598	443	15	163	45	97	49	30	29

救 急 ・ 救 助

救 急

(1) 救急隊配置場所

(平成19年4月1日現在)

配置場所	隊区分	車両区分	隊数
米子消防署	救急救命隊	高規格救急車	2隊
皆生出張所	救急救命隊	高規格救急車	1隊
南部出張所	救急救命隊	高規格救急車	1隊
伯書出張所	救急救命隊	高規格救急車	1隊
境港消防署	救急救命隊	高規格救急車	2隊
弓浜出張所	救急救命隊	高規格救急車	1隊
大山消防署	救急救命隊	高規格救急車	1隊
中山出張所	救急救命隊	高規格救急車	1隊
江府消防署	救急救命隊	高規格救急車	1隊
生山出張所	救急救命隊	高規格救急車	1隊

(2)高規格救急車積載一覧

積載器具名	数量	積載器具名	数量
心電図伝送装置	1式	開口器	1
半自動除細動器	1式	まくら	1
ベッドサイドモニター	1式	ドーナツ型まくら	1
オートベント	1式	感染防止用ゴーグル	3
輸液ポンプ	1式	舌庄子	3
心電計	1式	舌鉗子	1
デマンドバルブ	1式	マギール鉗子	大・小 各 1
在宅医療セット	1式	ステイフネック	大・中・小 各 1
新生児用資器材	1式	フェイスマスク	大・中・小 各 2
携帯電話	1	輸液セット	三方活栓付チューブ 4
携帯無線機	1	乳酸加リンゲル液	5
電動吸引器	1式	留置針	18・20・22 適量
バキュームスプリント	1式	経口エアウェイ	大・中・小・極小 各 1
マジックギプスセット	1式	経鼻エアウェイ	6・7・8・9 適量
バッグマスクセット	1式	鼻カニューレ	1
喉頭鏡セット	1式	クリーンネット	1
メインストレッチャー	1	洗面器	1
スクープストレッチャー	1	尿器	1
サブストレッチャー	1	マンシエット	大・中・小 適量
ユニオン担架	1	吸引カテーテル	適量
布担架	1	おはり箱	1
酸素ボンベ	10リットル	2	洗面器 1
減圧弁	2	気管内挿管チューブ	4・5・7・8・9 適量
酸素加湿流量計	二連	1	気管切開カニューレ 適量
血圧計	アネロイド・ハンド式	各 1	マスク 適量
聴診器	3	ピンセット	1
クーラーボックス	1	スタイレット	4
浮環	1	プラスチックグローブ	適量
グライスマスター	1	手術用手袋	適量
万能斧	1	ディスプレイ電極	心電計用 適量
レスキューン	1	三角布	適量
バール	1	ハイゼガーゼ	適量
サーチライト	4	ケーパーイン	適量
水中めがね	2	各種テープ	適量
トリアージタッグ	適量	紙マスク	適量
毛布	2	消毒綿	適量
コンビチューブ	適量	シーネ	大・中・小 各 1
ラリングアルマスク	適量	砂のう	3
酸素マスク	適量	固定用ベルト	2
救急シート	1	キシロカインスプレー	2
ゴム引きシート	1	シリレンジ	10・20・30mm 各 1
雨覆いシート	1	冷却パック	2
駆血帯	3	患者搬送記録・搬送証	適量
止血帯	ケース入	1	救命処置記録票 適量
万能ハサミ	2	中継用記録票	適量
体温計	1	住宅地図	1式

救 助

(1) 救助隊配置場所

(平成19年4月1日現在)

配置場所	隊区分	車両区分	隊数
米子消防署	救助隊	水槽付消防自動車	1 隊
境港消防署	救助隊	救助工作車(Ⅱ型)	1 隊
	水難救助隊		(1) 隊
大山消防署	救助隊	水槽付消防自動車	1 隊
江府消防署	救助隊	救助工作車(Ⅱ型)	1 隊
皆生出張所	特別救助隊	救助工作車(Ⅲ型)	1 隊

()は兼務

(2) 高度救助用資機材一覧

品名	数量	摘要
画像探索機 I 型	1 式	MVS2 9-7 5 0 0
画像探索機 II 型	2 式	アーチカム10 0C
地中音響探知機	1 式	TPL310B(ワンボックスタイプ)
熱画像直視装置	1 式	EEV-P4438型
夜間用暗視装置	1 式	ダイヤモンドナイトスタビスコープ

救助工作車(Ⅲ型)積載一覧表

積載器具名		数量	積載器具名		数量
三連梯子	8.7m	1	酸素濃度測定器		1
かぎ付単梯子	3.1m	1	有毒ガス測定器		1
ワイヤー梯子	1.1m	1	可燃性ガス測定器		1
耐電衣	ヘルメット・手袋	5組	サバイバーリング	スーパカラビナ付	2
救助用三脚		1式	エスケープ		2
鉄筋カッター	充電式	1	マット型空気ジャッキ	60・40・24t他	1式
SOS		1式	小型マット型空気ジャッキ		1式
ストライカー		1	ツインプーリー	カラビナ	2
空気呼吸器	レスクマスク付	3	ワイドプーリー		4
予備ボンベ	8L	14	エイト環		5
チルホール	ワイヤー10・20m	1式	カラビナ		20
エアラインマスク		2式	スーパーカラビナ		10
発電機	EF2300	1	エッジプロテクター		2
ワイヤーロープ	10・7・5・3m	8	安全帯		10
滑車	5t	2	縛帯		2
〃	オタフク	1	ユマー		2
プライムカット		1式	張力計	3t	1
クイックカット		1式	送排風機	ダクト付	1式
ハンマードリル		1	コードリール	2.9m	1
エアーソー		1式	スローダン	3.0m	1
ホルマトロ	スプレッダー	1	東消式担架		1
〃	カッター	1	バスケット担架	レスキューブライドル	1
〃	プランジャーラム	1	折りたたみ担架		2
〃	ホース・ホースリール	1	布担架		1
〃	エンジンポンプ	1	ユニオン担架		1
〃	フートポンプ	1	救命索発射銃	M-63	1式
〃	付属品	1式	削岩機		1式
ペダルカッター		1	巻きロープ		23
ダイヤモンドチェンソー	パワーユニット他	1式	Vスリング	3m・5m	6
スパカッター		1	綱ザイル	4.0m	2
エンジンカッター		1	スリリングロープ		適量
チェンソー		1	捨綱		適量
アルミジャッキ		1	浮環		1
検電器		1	あて木		適量
ピンジャッキ		3	双眼鏡		1
拡声器		2	反射チョッキ		7
安全帯		6	サーチライト	ハロゲン	4
レスキューフォース		2	水中ライト		1
ゴーグル		7	水中メガネ	シュノーケル付	2
防塵マスク		6	つるはし		1
トップマン		1	なた		1
セーフティーボーイ		1	掛矢		1
ボルトクリッパー	絶縁タイプ	1	大ハンマー		1
パイプレンチ		1	大斧		1
サルベージシート		1	スコップ		2
投光器		1式	鋸		1
吸着剤		適量	とび口		2

※救助バッグ (小網×14・カラビナ×21・ワイドプーリー×2)

※救急用資機材 (救急箱×1・ディバッグ×2・梯状副子×適量)

火 災 概 況

I. 火災概況

(平成18年1月～12月)

1. 出火状況

(1) 火災件数

平成18年中の火災件数は112件で、前年に比べ17件(13%)減少しているものの、過去10年間の平均値(平均火災件数112件)と同数となっています。

(別表I-1. 別表I-5. 別図I-1参照)

(2) 火災種別

火災の種別による構成比をみると、建物火災が全体の76%で、最も高い比率を占め、次いでその他火災13%、車両火災10%、林野火災1%の順となっています。

(別表I-1. 別図I-2参照)

(3) 月別

月別の火災件数を見ると、4月が16件で最も多く、次いで5月の14件、10月の12件、1月、2月の11件と続いています。

種別ごとの発生状況では、建物火災は4月(12件)に最も多く発生しています。

また、その他火災は年間を通じて月に1件から2件の割合で発生しています。

死者は3月に、負傷者は2月から8月の間に多く発生しています。

(別表I-2. 別図I-3参照)

(4) 市町村別

市町村別の火災件数を見ると市部(米子市・境港市)が全体の72%を占めています。

町村部では、大山町と日南町の件数・割合が他町と比べ多くなっています。

(別表I-3. 別図I-4参照)

(5) 損害額

損害額は約2億8802万円で、前年(3億6021万円)に比べ、7219万円少なくなっています。

火災種別ごとの損害額を見ると建物火災によるものが、全体の99%を占めています。

また、月別の損害額をみると、4月が全体の23%を占め、次いで1月の18%となっています。

(別表I-1. 別表I-2参照)

2. 出火原因

出火原因の第1位は「放火・放火の疑い」と「こんろ」の12件で、続いて「ストーブ」（6件）、「火あそび」、「たき火」（5件）の順となっています。

（別表 I - 4 参照）

3. 死者・負傷者

死者数は5人で、前年の10人に比べ大幅に減少していますが、負傷者は前年と同数の19人となっています。

死者の発生経過をみると、5人中3人が「逃げ遅れ」によるものです。

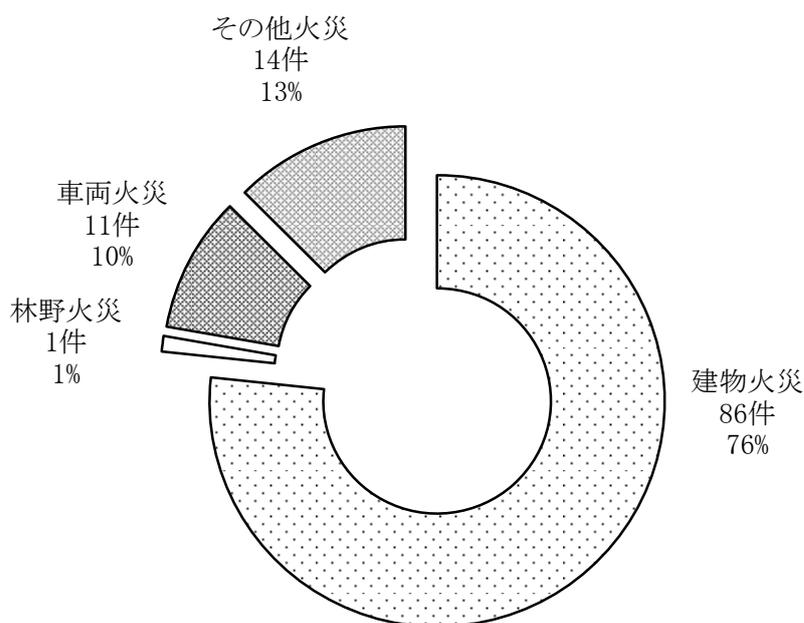
また、負傷者は「初期消火中」などの際に多く発生しています。

（別表 I - 1. 別図 I - 5. 別図 I - 6 参照）

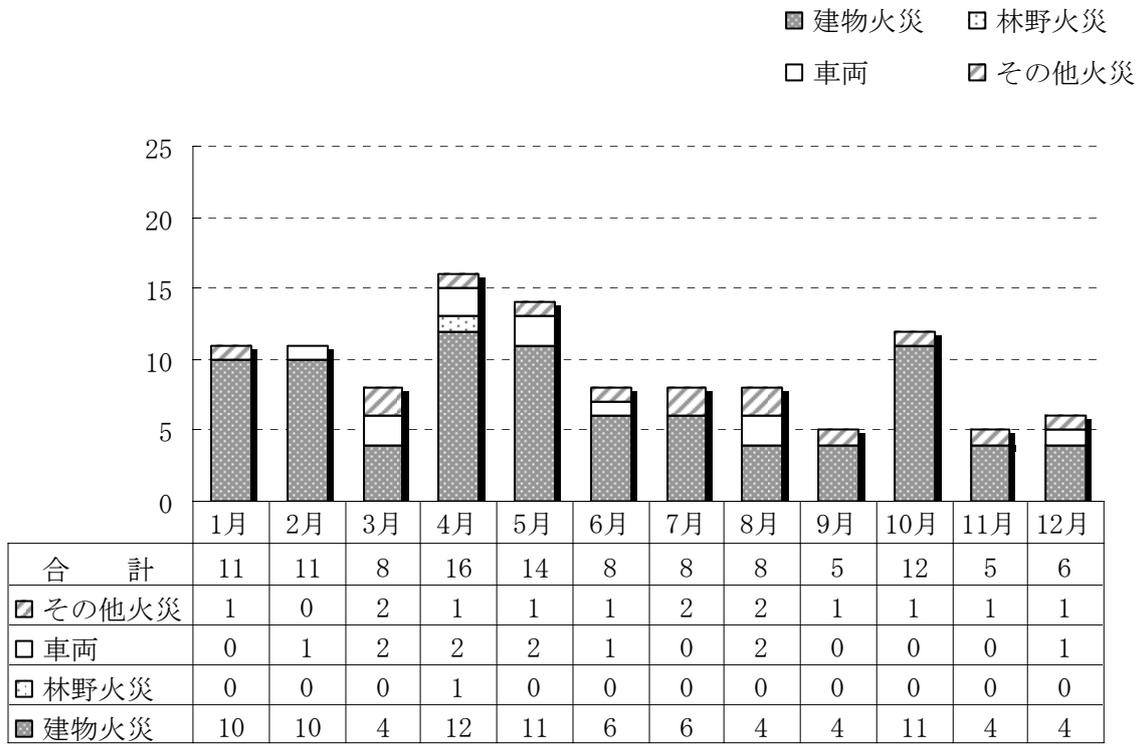
別図 I - 1 火災件数の推移



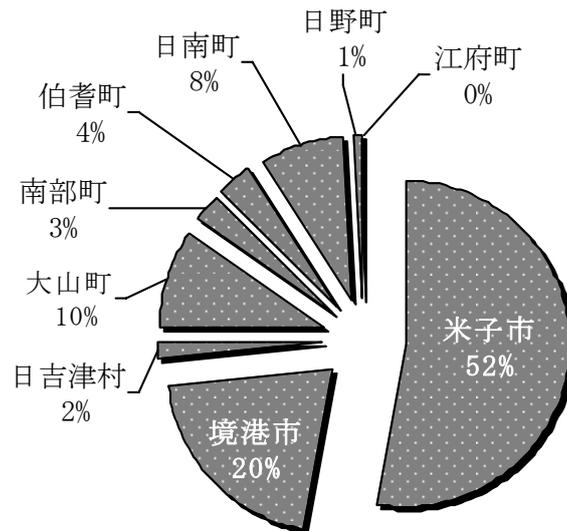
別図 I - 2 火災種別ごとの件数と構成比率



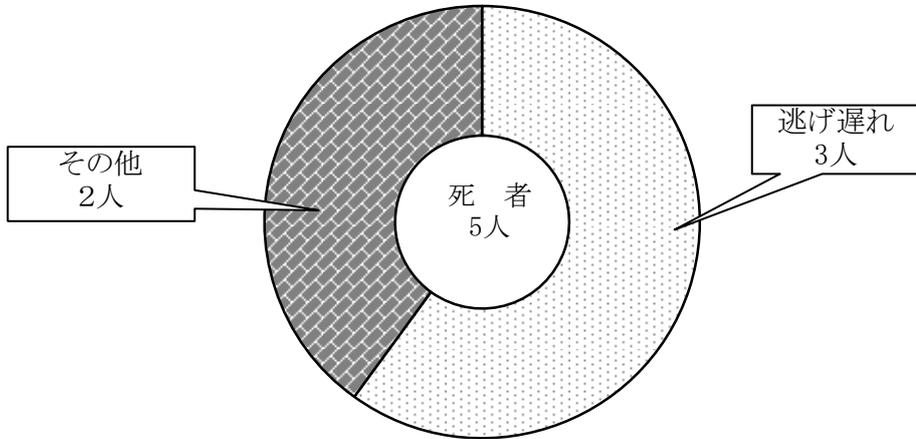
別図 I - 3 月別の火災件数



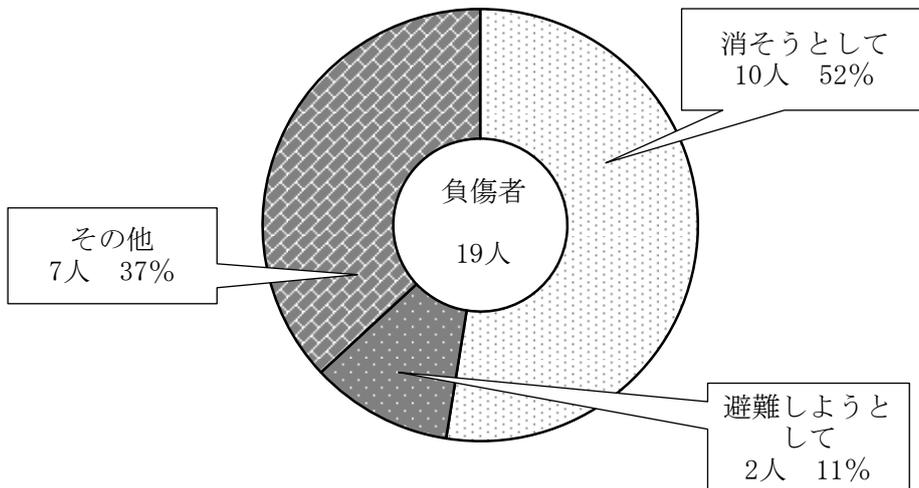
別図 I - 4 市町村別火災件数の構成比率



別図 I - 5 経過別死者発生状況



別図 I - 6 経過別負傷者発生状況



別表 I - 1 平成18年の火災の概況

区 分	平成18年 A	平成17年 B	増 減 C (A-B)	増 減 率 C/B (%)	
火災件数(件)	112 (100%)	129 (100%)	-17	-13%	
建物火災	86 (76%)	82 (63%)	4	5%	
林野火災	1 (1%)	5 (4%)	-4	-80%	
車両火災	11 (10%)	17 (13%)	-6	-35%	
船舶火災	()	1 (1%)	-1	-100%	
その他火災	14 (13%)	24 (19%)	-10	-42%	
焼損棟数(棟)	137 (100%)	160 (100%)	-23	-14%	
全 焼	28 (20%)	55 (34%)	-27	-49%	
半 焼	13 (10%)	19 (12%)	-6	-32%	
部 分 焼	55 (40%)	38 (24%)	17	45%	
ぼ や	41 (30%)	48 (30%)	-7	-15%	
罹災世帯数(世帯)	78 (100%)	101 (100%)	-23	-23%	
全 損	18 (23%)	39 (39%)	-21	-54%	
半 損	9 (12%)	13 (13%)	-4	-31%	
小 損	51 (65%)	49 (48%)	2	4%	
罹災人員(人)	238	267	-29	-11%	
焼損面積	建物(m ²)	5,721	8,124	-2,403	-30%
	林野(a)		136	-136	-100%
損害額(千円)	288,024	360,219	-72,195	-20%	
建物火災	284,659	349,437	-64,778	-19%	
林野火災		563	-563	-100%	
車両火災	2,576	9,689	-7,113	-73%	
船舶火災		200	-200	-100%	
その他火災	789	330	459	139%	
1件当り り損害額 (千円)	火災全体	2,572	2,792	-220	-8%
	建物火災	3,310	4,261	-951	-22%
1件当り 損害面積	建物(m ²)	67	99	-32	-32%
	林野(a)		27	-27	-100%
死者(人)	5	10	-5	-50%	
負傷者(人)	19	19	0	-	
出火率(人口1万人当り)	4.48	5.14	-0.66	-13%	

備考 () 内は構成比を示す なお、損害額については概数

別表 I - 2 月別火災発生状況

	合 計		建物火災			林野火災			車両火災		船舶火災		その他火災		焼損棟数					り災世帯					死 傷 者	負 傷 者	30日以内死亡
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	焼損面積 ㎡	件数	損害額 (千円)	焼損面積 a	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	全損	半損	小損	り災人員			
1月	11	50,834	10	50,751	1706							1	83	27	8	1	14	4	18	6		12	44				
2月	11	20,268	10	20,250	361			1	18					14	2	1	9	2	6	1		5	21		5		
3月	8	26,690	4	26,439	204			2	251			2		5	1		2	2	3	1		2	8	2	2	1	
4月	16	67,603	12	67,483	1423	1		2	120			1		19	6		7	6	14	3	2	9	40	1	2		
5月	14	23,619	11	23,586	293			2	32			1	1	15	1	2	5	7	11	1	1	9	34	1	1		
6月	8	25,261	6	24,361	340			1	900			1		7	1		3	3	4	1		3	20		1		
7月	8	7,650	6	7,650	329							2		8	4		2	2	3	1		2	8	1	2	1	
8月	8	3,476	4	2,411	116			2	1,065			2		4	1		2	1	1	1			2		4		
9月	5	37,878	4	37,878	469							1		10	1	4	1	4	5	2		3	20				
10月	12	2,946	11	2,945	163							1	1	15	1	3	7	4	5		2	3	16		1		
11月	5	2,362	4	2,352	163							1	10	8	2	1		5	3	1		2	6				
12月	6	19,437	4	18,553	154			1	190			1	694	5		1	3	1	5		4	1	19		1		
合計	112	288,024	86	284,659	5,721	1		11	2,576			14	789	137	28	13	55	41	78	18	9	51	238	5	19	2	

別表 I - 3 市町村別火災状況

	火災件数						焼損面積			焼損棟数					り災世帯数				り 災 人 員	死 者	負 傷 者	3 0 日 以 内 死 亡	損 害 額 (千 円)
	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	床 面 積 ㎡	表 面 積 ㎡	林 野 積 a	合 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	合 計	全 損	半 損	小 損					
米子市	59	50		4		5	2,174	61		73	11	7	33	22	35	8	6	21	124	3	8	2	147,769
境港市	23	18		1		4	2,286	30		37	8	3	13	13	31	6	2	23	84		2		84,579
日吉津村	2			1		1																	50
大山町	11	6		3		2	366	9		8	3		2	3	3	1		2	12	2	3		32,346
南部町	3	2		1			146	11		6	2	1	3		3	1	1	1	6		2		3,034
伯耆町	4	2	1			1	22			2		1		1	1			1	2		1		1,193
日南町	9	8				1	727	19		11	4	1	4	2	5	2		3	10		3		18,123
日野町	1			1																			930
江府町	0																						
合 計	112	86	1	11		14	5,721	130		137	28	13	55	41	78	18	9	51	238	5	19	2	288,024

別表 I - 4 出火原因別火災発生概況

原因別	出火件数							損害額（千円）	死者負傷者	
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	死者	負傷者
合計	112	86	1	11			14	288,024	5	19
たばこ	2	2						16,970		1
こんろ	12	12						13,830		5
かまど										
風呂かまど	3	3						39,807		
炉	1	1						921		
焼却炉	1	1						70		
ストーブ	6	6						11,382		2
こたつ										
ボイラー										
煙突・煙道	1	1						3		
排気管	1			1				900		
電気機器	3	2		1				75		
電気装置										
電灯・電話等の配線	4	3					1	29,776		
内燃機関	1			1				70		
配線器具	2	1		1				1,687		
火あそび	5	5						12,024		
マッチ・ライター	2	2						145		1
たき火	5	1	1				3	1,371	2	1
溶接機・切断機	3	3						308		
灯										
衝突の火花										
取灰										
火入れ	4						4			
放火	5	5						3,079		
放火の疑い	7	6					1	8,129		
その他	15	11		3			1	37,503		1
不明・調査中	29	21		4			4	109,974	3	8

別表 I - 5 過去10年間の火災発生状況

区分	合計		建物火災			林野火災			車両火災		船舶火災		その他火災		焼損棟数					罹災世帯					死者	負傷者
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	焼損面積 ㎡	件数	損害額 (千円)	焼損面積 a	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	全損	半損	小損	罹災人員 (人)		
9年	90	253,810	51	248,846	2,922	6		15	14	4,516			19	448	74	19	6	35	14	48	10	5	33	165	4	17
10年	108	205,257	73	178,798	3,352	3	65	50	8	21,483			24	1,509	92	27	10	29	26	49	13	6	30	161	5	6
11年	93	404,896	61	401,903	5,393	4		319	10	1,691	2	718	16	584	94	35	7	27	25	57	19	4	34	197	5	15
12年	107	156,560	63	138,370	2,763	7		16	13	13,991	1	4,000	23	199	83	20	8	26	29	50	12	5	33	151	4	10
13年	120	232,096	63	200,616	3,416	5	5,207	199	21	21,315	1	4,500	30	458	88	26	7	29	26	55	13	5	37	195	6	11
14年	143	261,812	72	252,724	4,364	10	1,638	453	13	6,538			48	912	105	33	5	40	27	66	17	2	47	207	8	21
15年	111	145,855	73	143,834	3,875	2		6	14	1,588			22	433	99	23	11	37	28	62	17	10	35	191	9	23
16年	105	254,660	69	249,412	5,900	6	5	30	14	5,243			16		103	27	12	33	31	56	11	6	39	190	4	18
17年	129	360,219	82	349,437	8,124	5	563	136	17	9,689	1	200	24	330	160	55	19	38	48	101	39	13	49	267	10	19
18年	112	288,024	86	284,659	5,721	1			11	2,576			14	789	137	28	13	55	41	78	18	9	51	238	5	19

救急救助概況

Ⅱ. 救急概況

(平成18年1月～12月)

1. 救急出場件数、救急搬送状況

平成18年中の救急出場件数は17年中に比べて3.1%増加し9,125件、搬送人員は0.7%増加し8,473人で、ともに過去最高となりました。

(別図Ⅱ-1、Ⅱ-2、Ⅱ-3参照)

2. 市町村別救急活動状況

市町村別では、米子市の救急出場件数及び搬送人員がそれぞれ5,257件(57.6%)、4,825人(56.9%)と最も多く、過半数を占めています。

(別図Ⅱ-4参照)

3. 傷病程度別搬送状況

傷病程度別の搬送人員では、中等症が3,998人(47.2%)で最も多く、次いで軽症が3,005人(35.5%)となっています。

(別図Ⅱ-5参照)

4. 年齢別搬送状況

年齢別の搬送人員では、65歳以上の老人(高齢者)が70人増加し4,487人(52.9%)と最も多くなっています。

(別図Ⅱ-6参照)

5. 署所別救急活動状況

署所別では、米子消防署の出場件数及び搬送人員がそれぞれ3,201件(35.1%)、2,909人(34.3%)と最も多くなっています。

(別図Ⅱ-7参照)

6. 月別救急活動状況

月別の出場件数と搬送人員では、1月がそれぞれ880件(9.6%)、809人(9.5%)で最も多く、続いて12月の836件(9.2%)、761人(9.0%)となっています。

(別図Ⅱ-8参照)

7. 現場到着所要時間、収容所要時間

平均現場到着所要時間は7分10秒、平均収容所要時間は32分33秒でした。

(別図Ⅱ-9、Ⅱ-10参照)

8. 応急手当実施状況

心肺停止傷病者のうち家族等により応急手当を受けた人は、118人でした。

(別図Ⅱ-11参照)

9. 高度救命処置状況

心肺停止傷病者260人のうち172人が救急救命士による高度救命処置を受け、そのうち17人に回復が見られました。

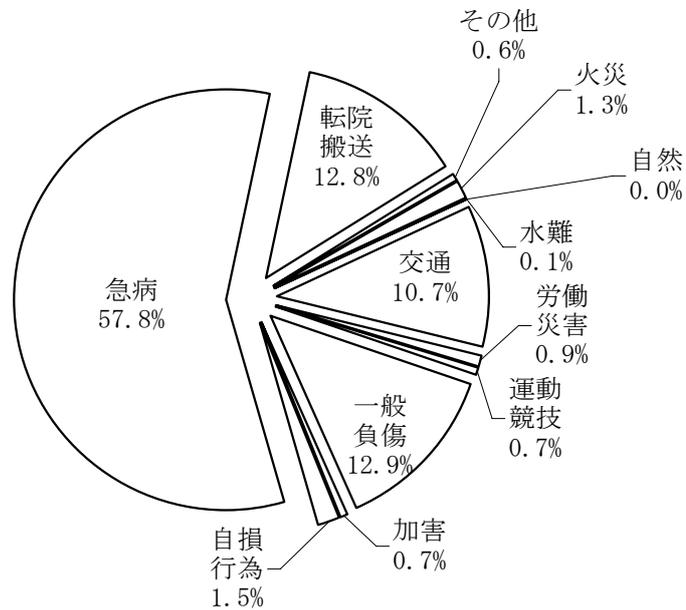
(別図Ⅱ-12、Ⅱ-13参照)

10. 救急講習件数の推移

西部消防局で過去5年間に実施した救急講習に、毎年10,000人以上の人が受講されています。

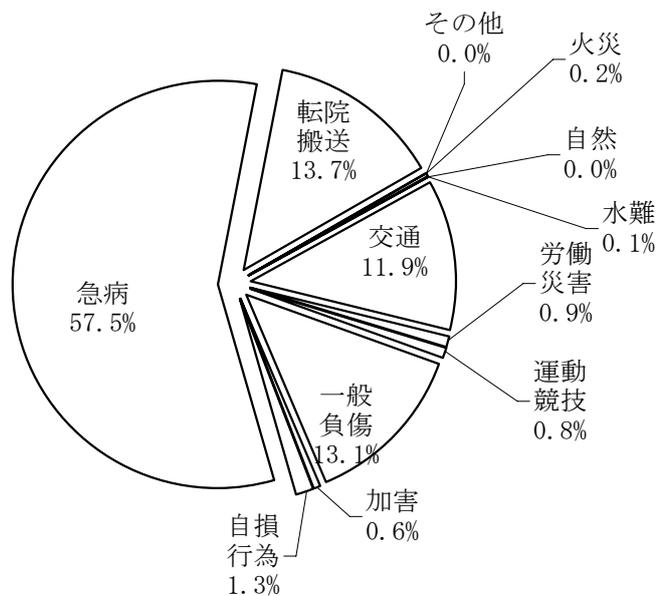
(別図Ⅱ-14、Ⅱ-15参照)

別図Ⅱ-1 事故種別救急出場状況



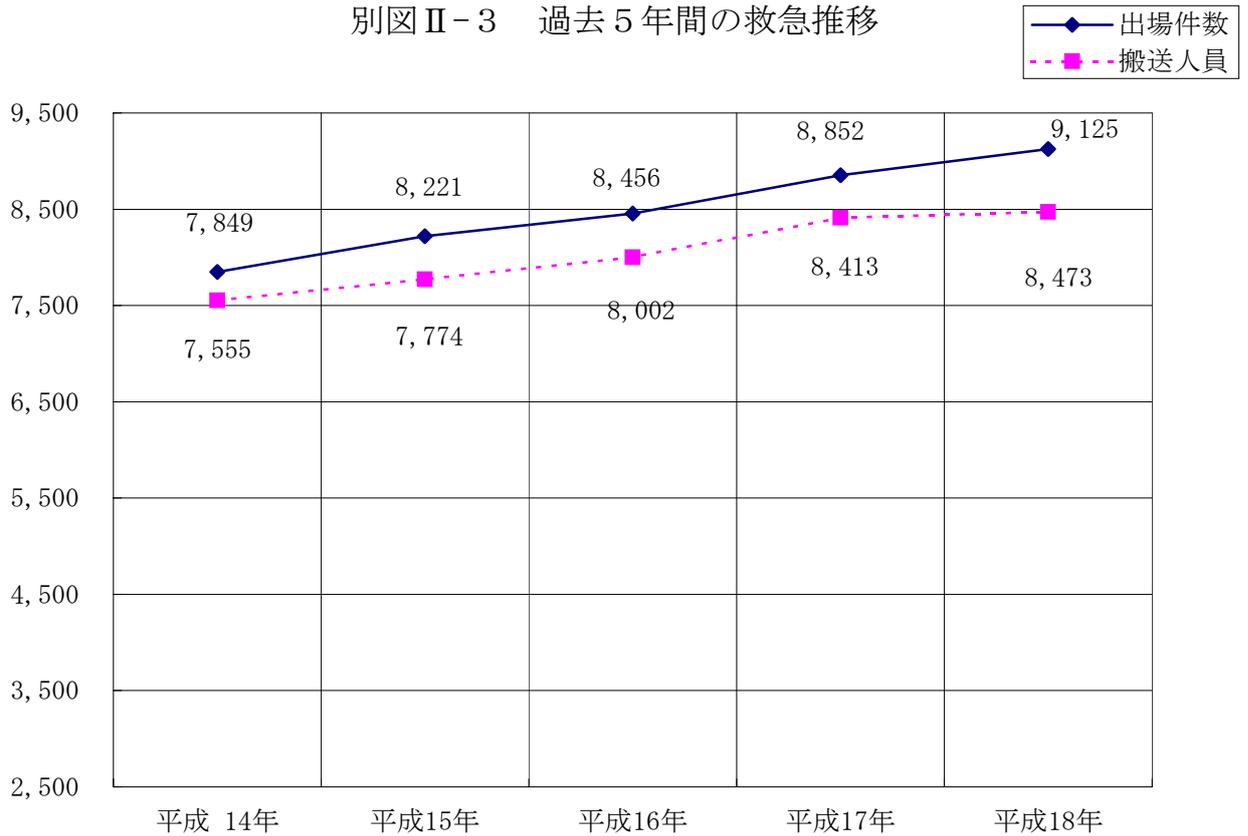
事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
出場件数	118	0	12	973	78	65	1,180	61	138	5,277	1,167	56	9,125

別図Ⅱ-2 事故種別救急搬送状況

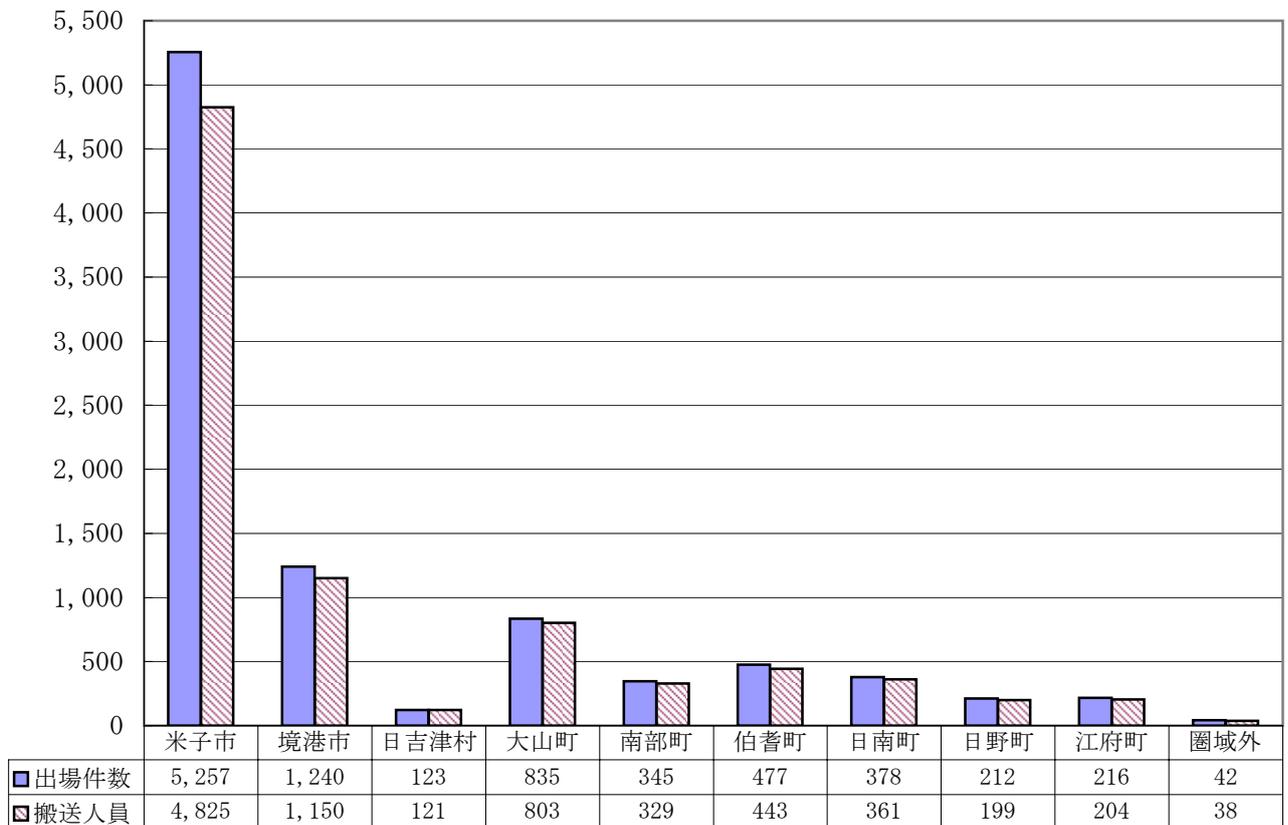


事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
搬送人員	18		7	1,005	75	65	1,113	49	108	4,869	1,164		8,473

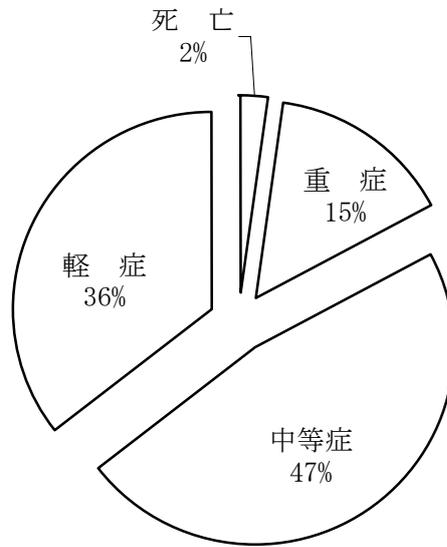
別図Ⅱ-3 過去5年間の救急推移



別図Ⅱ-4 市町村別救急活動状況

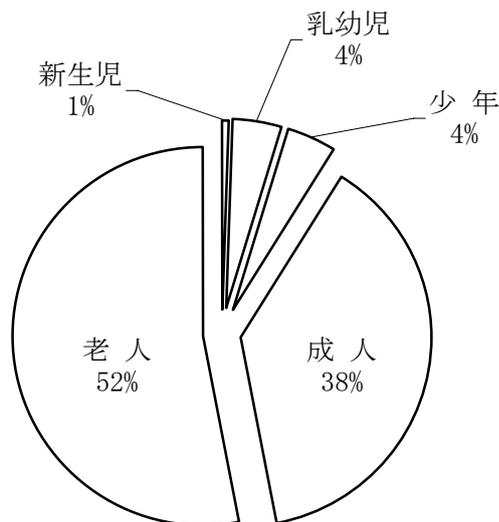


別図Ⅱ-5 傷病程度別搬送状況



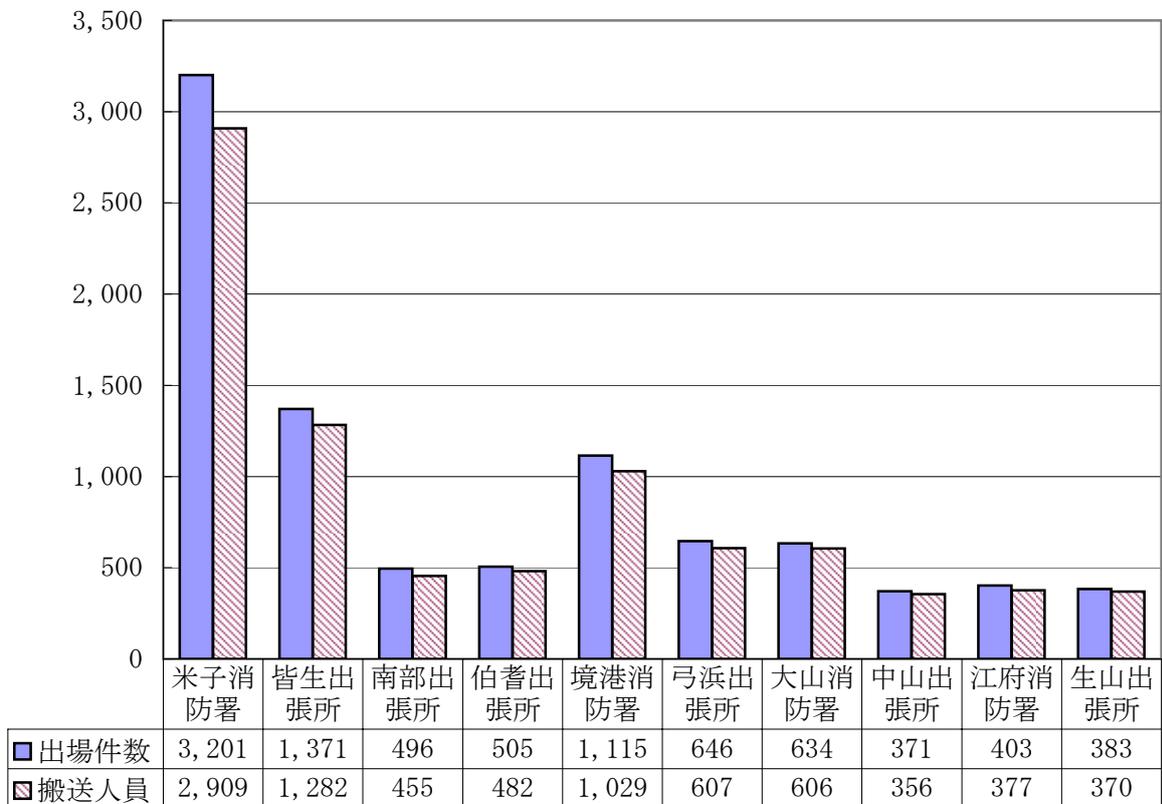
程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	193	1,254	3,998	3,005	23	8,473

別図Ⅱ-6 年齢別搬送状況

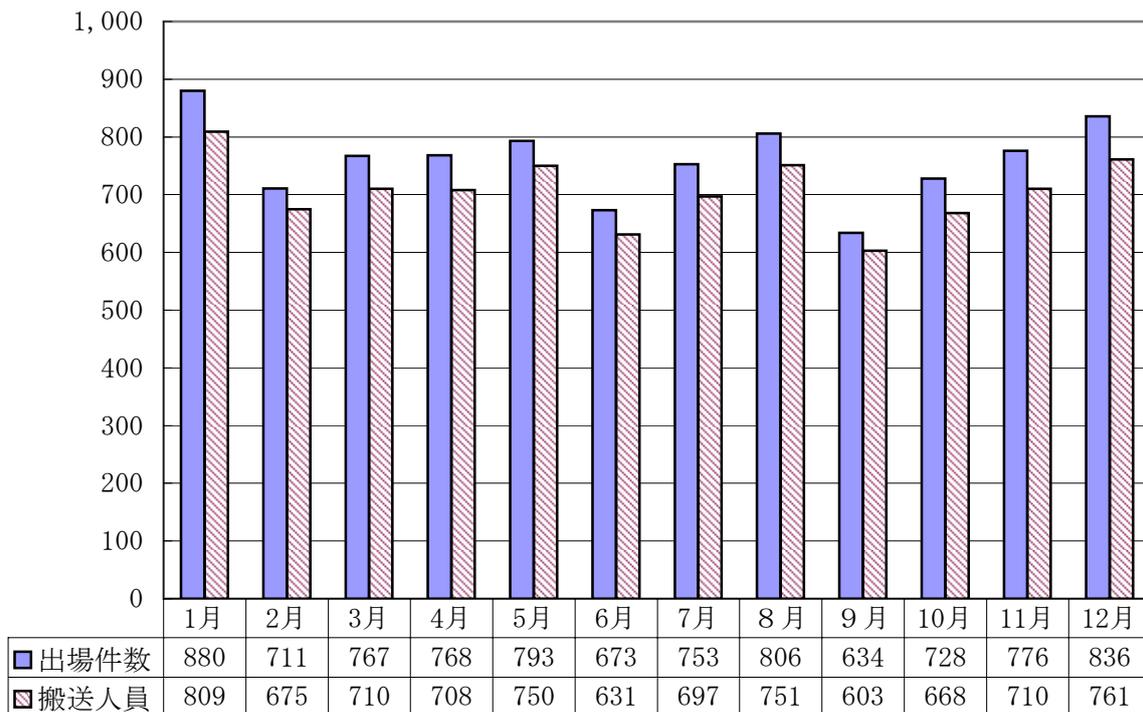


	新生児	乳幼児	少年	成人	老人	合 計
搬送人員	56	348	339	3,243	4,487	8,473

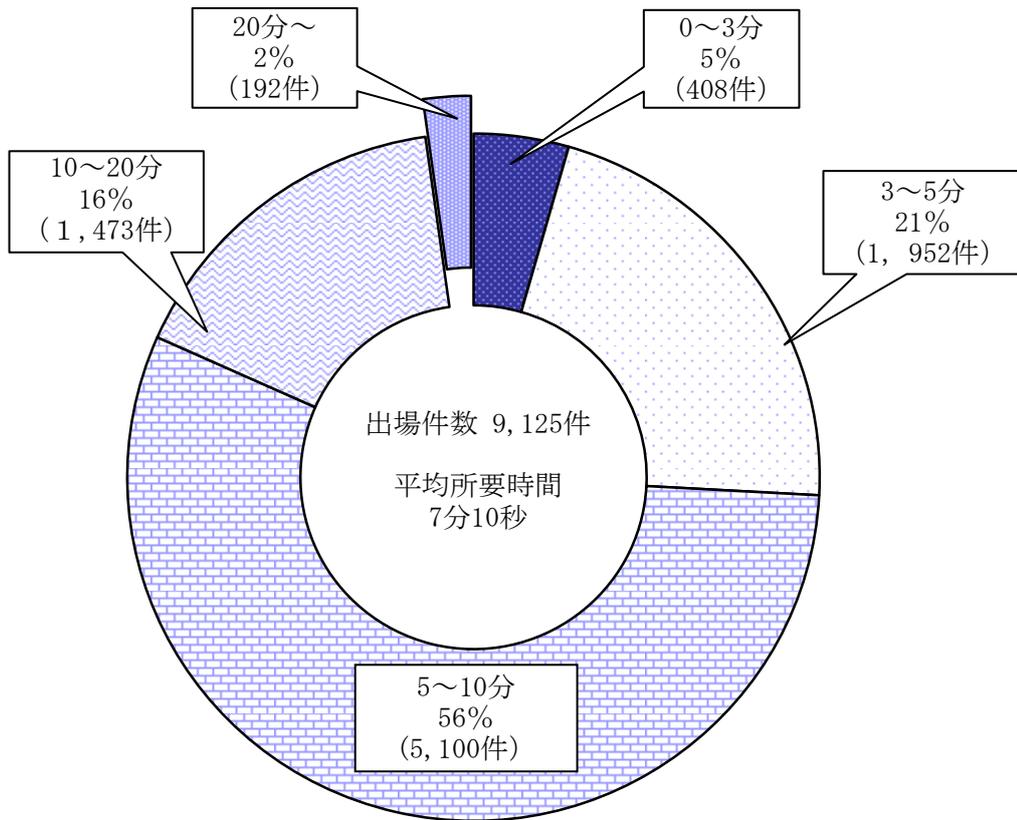
別図Ⅱ-7 署所別救急活動状況



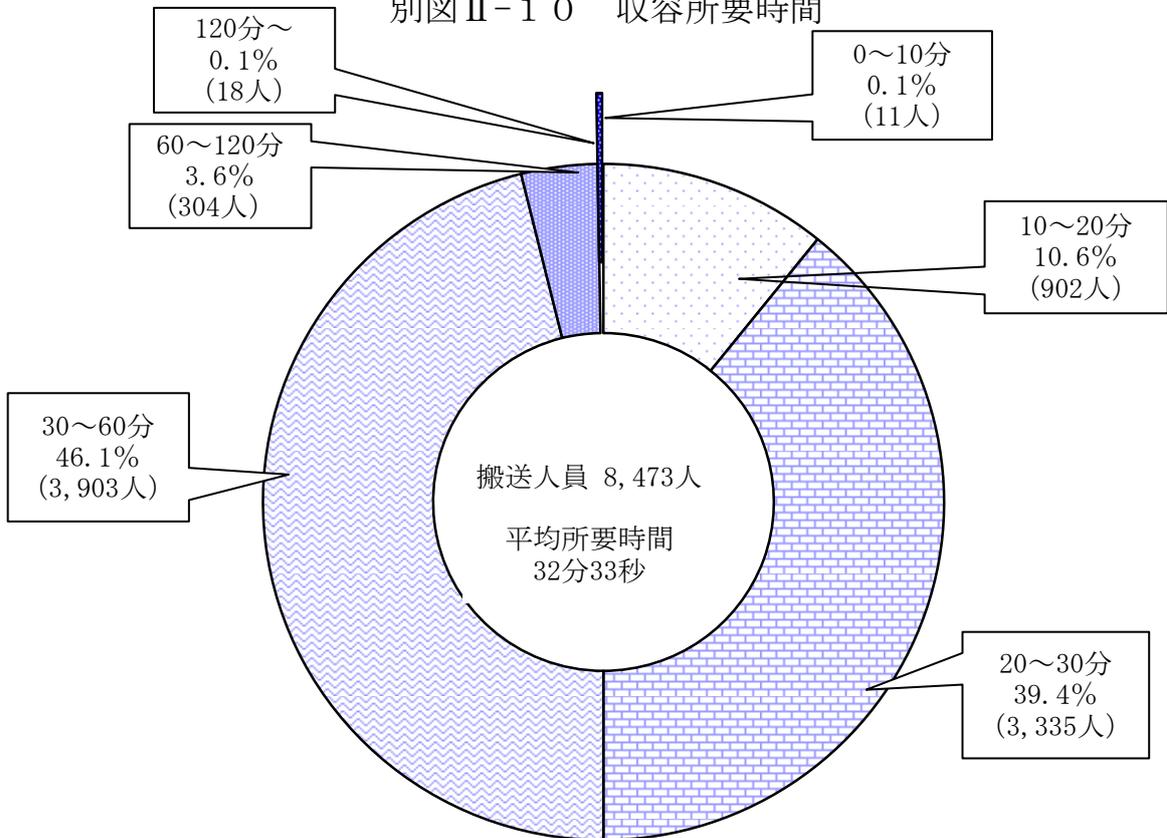
別図Ⅱ-8 月別救急活動状況



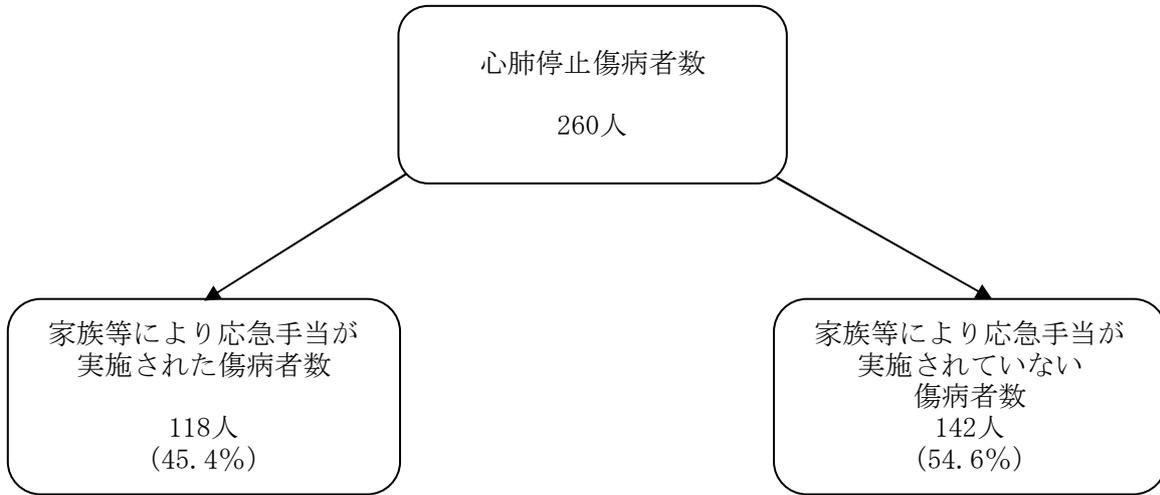
別図Ⅱ-9 現場到着所要時間



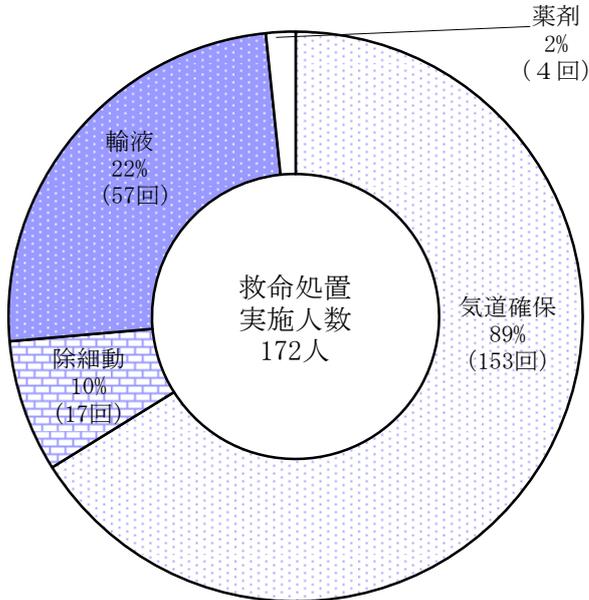
別図Ⅱ-10 収容所要時間



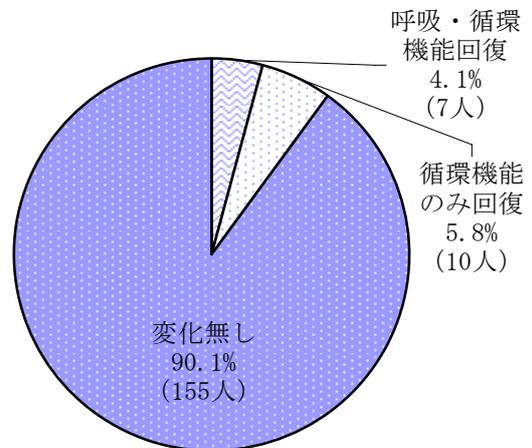
別図Ⅱ-1 1 応急手当実施状況



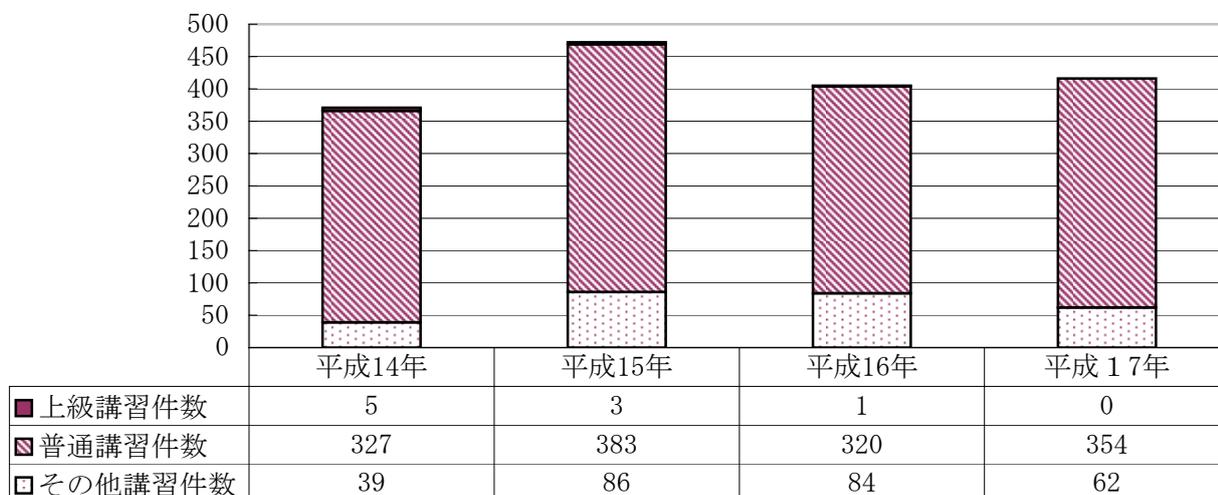
別図Ⅱ-1 2 高度救命処置状況



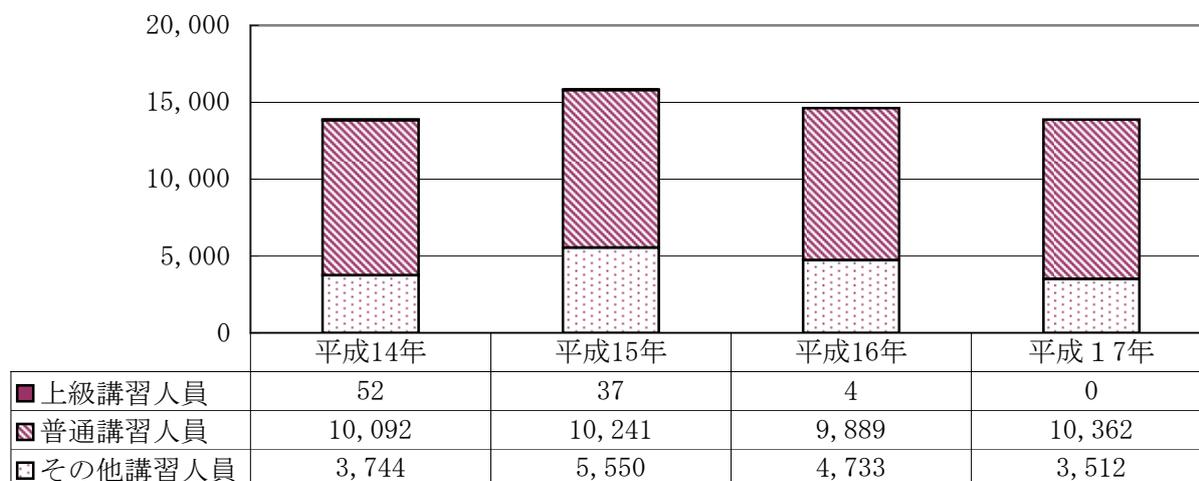
別図Ⅱ-1 3 医師引き継ぎ時の状況



別図Ⅱ－１３ 過去５年間の救急講習件数推移



別図Ⅱ－１４ 過去５年間の救急講習人員推移



別図Ⅱ－１５ 応急手当指導員・普及員の養成

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
応急手当指導員	4	7	24	0	0
応急手当普及員	15	8	0	33	12

Ⅲ. 救助概況

(平成18年1月～12月)

1. 事故種別救助出場状況

救助出場件数は230件あり、そのうち交通事故が96件(41.7%)、火災が83件(36.1%)、その他の事故が33件(14.3%)、水難事故が11件(4.7%)となっています。

(別図Ⅲ-1参照)

2. 事故種別救助活動状況

救助活動件数は101件あり、そのうち交通事故が57件(56.4%)、その他の事故が24件(23.8%)、水難が10件(9.9%)となっています。

(別図Ⅲ-2参照)

3. 事故種別救助人員状況

救助された人員は101人あり、そのうち交通事故が60人(59.4%)と最も多く、その他の事故が27人(26.7%)、水難が10人(9.9%)となっています。

(別図Ⅲ-3参照)

4. 救助事故の死傷程度

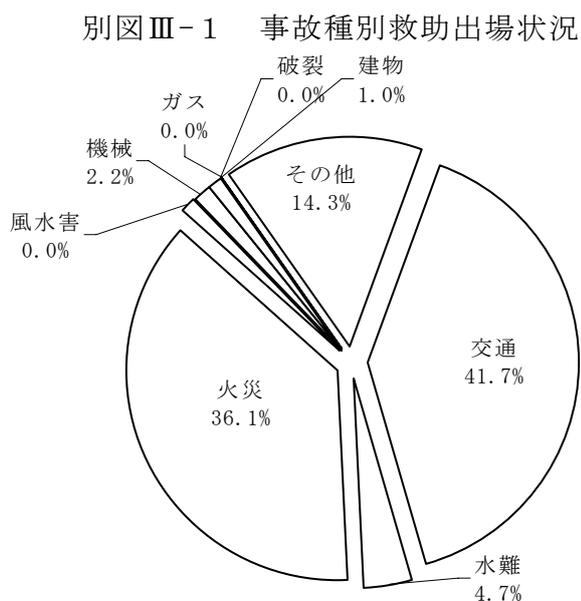
救助された死傷者の程度は、中等症が33人と最も多く、次いで軽症が28人、重症が19人、死亡が15人、その他が6人となっています。

(別図Ⅲ-4参照)

5. 署別救助活動状況

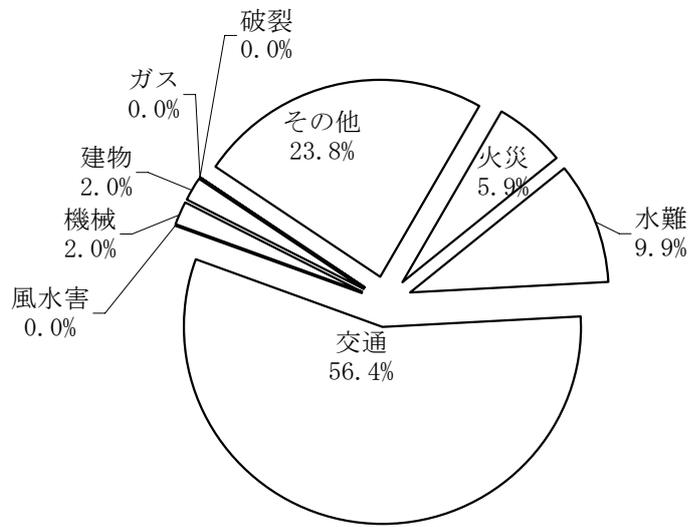
署別の出場件数では、米子消防署が130件と最も多く、次いで境港消防署が35件、大山消防署が34件、江府消防署が31件となっています。

(別図Ⅲ-5参照)



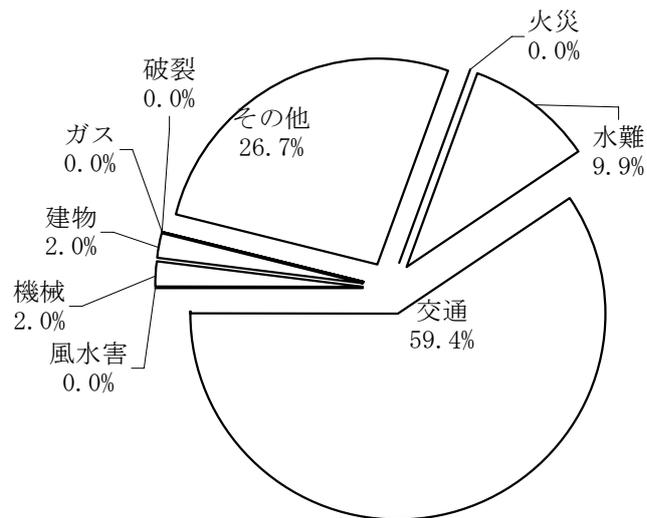
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
出場件数	83	11	96	0	5	2	0	0	33	230

別図Ⅲ-2 事故種別救助活動状況



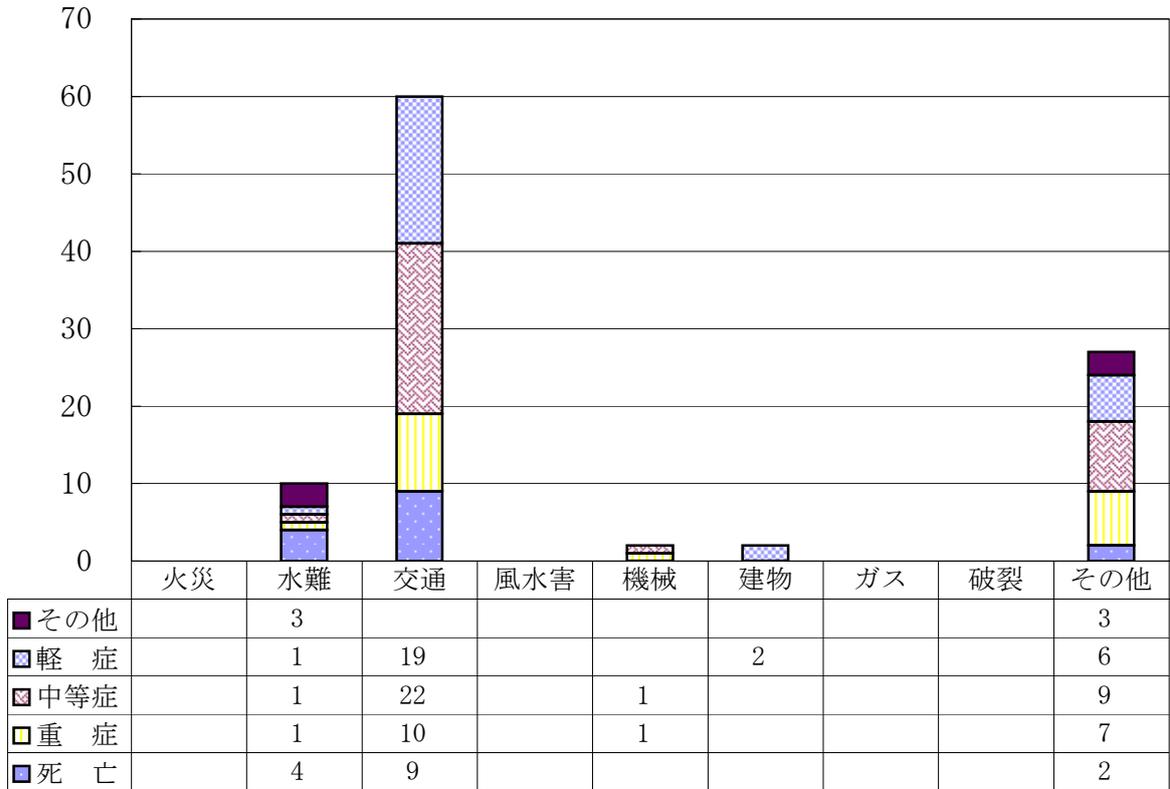
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
活動件数	6	10	57	0	2	2	0	0	24	101

別図Ⅲ-3 事故種別救助人員状況

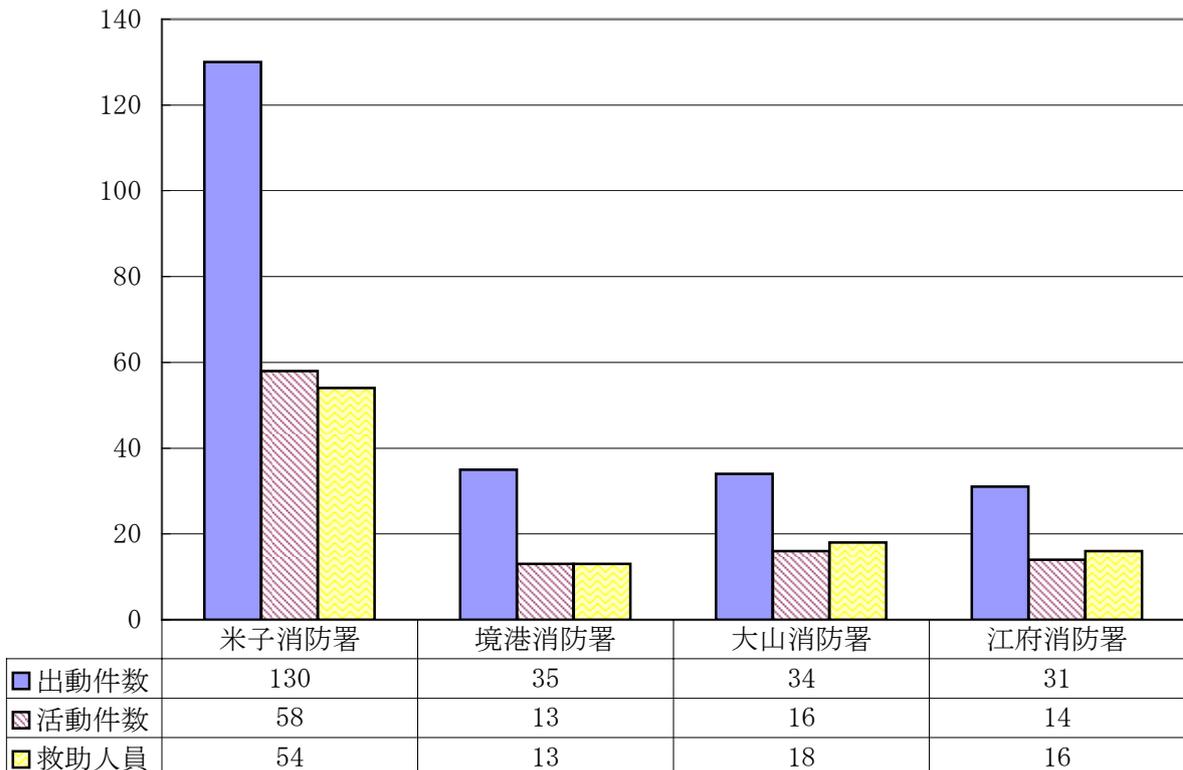


事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
救助人員		10	60	0	2	2	0	0	27	101

別図Ⅲ-4 救助事故の死傷程度



別図Ⅲ-5 署別救助活動状況



119番着信状況

IV. 119番着信状況

(平成18年1月1日～12月31日)

1. 概況

平成18年中の119番通報は、総着信件数で12,700件ありました。1ヶ月平均にすると約1,058件、1日平均では約35件の着信となります。

通報内容としては、やはり救急通報が最も多く8,847件(69%)でした。

火災通報は347件(3%)で去年より54件少なくなっています。そのほかの通報としては、間違いが894件、通報訓練などの通報が1,038件、休日・夜間などに病院に関する問い合わせ等が1,200件となっており、いたずらと思われるものも197件ありました。昨年まで救助件数を警戒等に合算し、表記していませんでしたが、今年の概況から救助として載せています。

(別表IV-1 別図IV-1 参照)

2. 月別の着信状況

月別での平均着信件数は、1,058件、最も多かったのは12月の1,146件逆に最も少なかった月は6月の927件です。火災通報は月平均約29件、最も多かったのは4月の65件、逆に最も少なかったのは7月の12件でした。救急通報の月平均着信件数は737件で各月に大きな変化はありません。時間帯別119番通報の着信件数は睡眠時間帯に件数が低下、活動時間帯に増加しています。

(別表IV-2 別図IV-2、4 参照)

3. 携帯電話からの着信状況

携帯電話からの119番通報は3,132件で、全着信件数の26%でした。

携帯電話で119番通報されると、必ずしも電話をされた地区を管轄する消防に接続されるとは限りません。管轄地区以外からの通報は、その地区を管轄する消防本部に電話を転送し対応してもらいます。またその逆もあります。これを転送処理件数として別表としています。他の消防機関との転送処理件数は74件ありました。

携帯電話による通報では発信地表示システムが使用できないため、災害現場把握に時間を多く必要とします。できるだけ固定電話での通報をお願いします。

(別表IV-3、5、6 別図IV-3 参照)

4. 電話種別による通報状況

平成10年10月から運用開始した携帯電話等からの119番受信件数は毎年増加していましたが、月に260件程度で横ばい傾向です。17年よりIP電話からの119番通報ができるようになりました。統計上也載せていますが、18年中は310件あり、増加傾向にあります。

(別表IV-3、4 別図IV-3 参照)

別表Ⅳ－１

１１９番着信件数の推移

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	悪戯	間違い	訓練等	合計
平成１４年	342	7,347	－	125	978	442	1,268	1,606	12,108
平成１５年	244	7,677	－	132	1,070	362	1,185	1,554	12,224
平成１６年	308	7,879	－	130	1,147	514	1,057	1,745	12,780
平成１７年	401	8,554	－	140	1,137	259	962	1,635	13,088
平成１８年	347	8,847	73	104	1,200	197	894	1,038	12,700

別表Ⅳ－２

月別１１９番着信状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	悪戯	間違い	訓練等	合計
１月	38	834	10	6	125	17	69	39	1,138
２月	19	704	3	6	86	11	61	38	928
３月	24	755	7	6	88	20	77	101	1,078
４月	65	785	6	10	111	15	68	88	1,149
５月	33	759	4	9	113	24	75	73	1,090
６月	20	648	4	5	70	17	62	101	927
７月	12	726	5	21	114	15	80	68	1,041
８月	19	770	5	11	119	12	76	51	1,063
９月	32	615	5	4	103	17	93	89	958
１０月	26	696	12	9	92	10	90	132	1,067
１１月	22	742	6	9	90	24	71	151	1,115
１２月	37	813	6	8	89	15	72	107	1,146
合計	347	8,847	73	104	1,200	197	894	1,038	12,700
月平均	29	737	6	9	100	16	75	87	1,058

別表Ⅳ－３ 電話種別による１１９番着信件数の推移

	携帯電話からの着信件数	固定電話からの着信件数	I P 電 話	合 計
平成１４年	２，８２９	９，２７９		１２，１０８
平成１５年	２，８７３	９，３５１		１２，２２４
平成１６年	３，３５５	９，４２５		１２，７８０
平成１７年	３，３２１	９，７６７	６７	１２，６４６
平成１８年	３，１３２	９，２５８	３１０	１２，７００

別表Ⅳ－４ 電話種別の通報状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	悪戯	間違い	訓練等	合計
１１９固定	１７８	６，８０７	２９	６５	６６６	９７	５２０	８９６	９，２５８
１１９携帯	１６４	１，８６５	４２	３９	５１２	９８	３６０	５２	３，１３２
１１９ I P	５	１７５	２	０	２２	２	１４	９０	３１０
総合計	３４７	８，８４７	７３	１０４	１，２００	１９７	８９４	１，０３８	１２，７００

別表Ⅳ－５ 携帯電話からの着信状況

西部消防圏域内の災害などの着信件数		他の消防機関に転送をした件数	総着信件数
直接通報を受けた件数	他の消防機関から転送受信した件数	３６	３，１３２
３，０５８	３８		

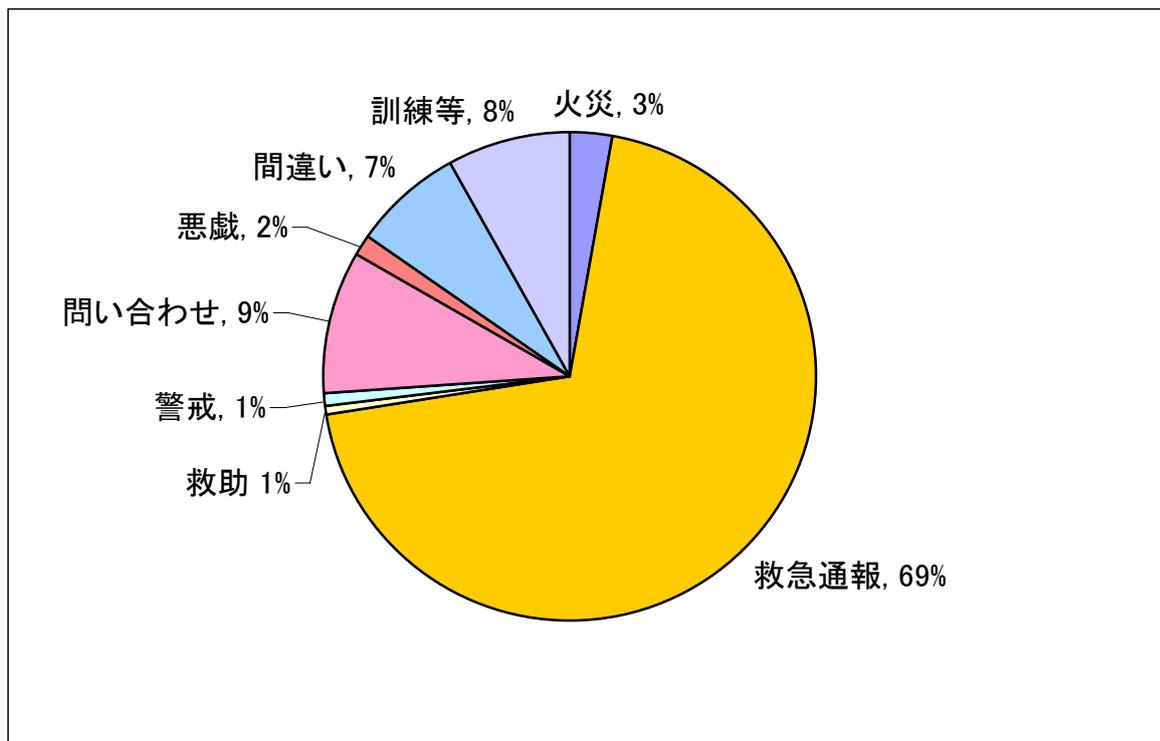
別表Ⅳ－6

携帯電話の消防機関別転送状況

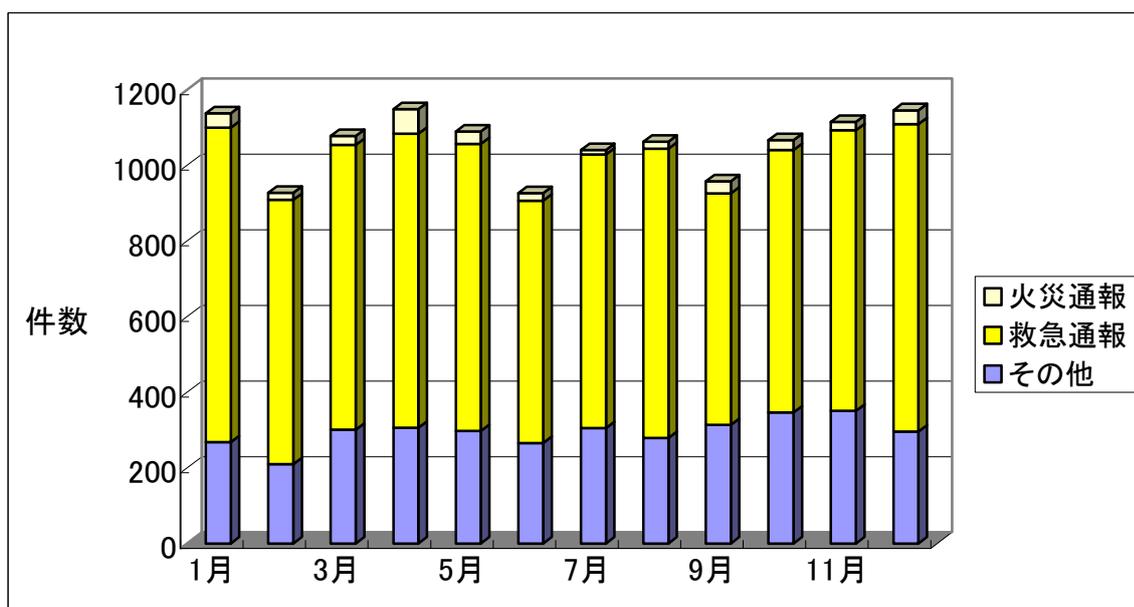
他の消防機関に転送した件数				
消防	火災	救急	その他	合計
松江		14	4	18
安来		9	2	11
雲南				
東部				
中部		5		5
新見				
真庭		2		2
津山				
備北				
合計		30	6	36

他の消防機関から転送を受信した件数				
消防	火災	救急	その他	合計
松江		4		4
安来		22	4	26
雲南				
東部		1		1
中部		5	1	6
新見		1		1
真庭				
津山				
備北				
合計		33	5	38

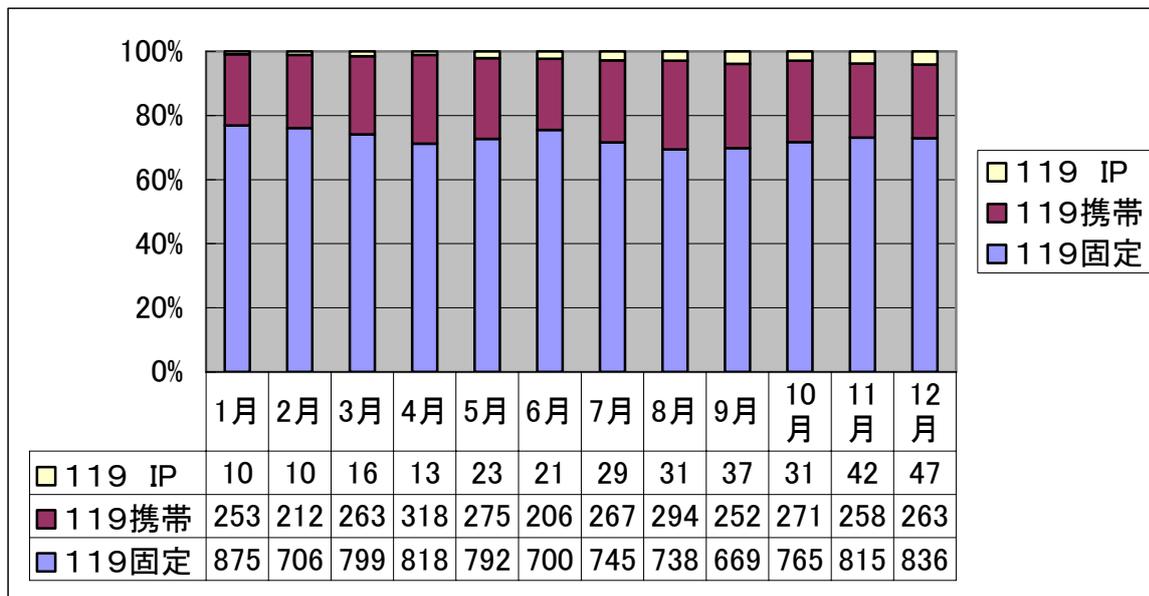
別図IV－1 通報内容別着信状況



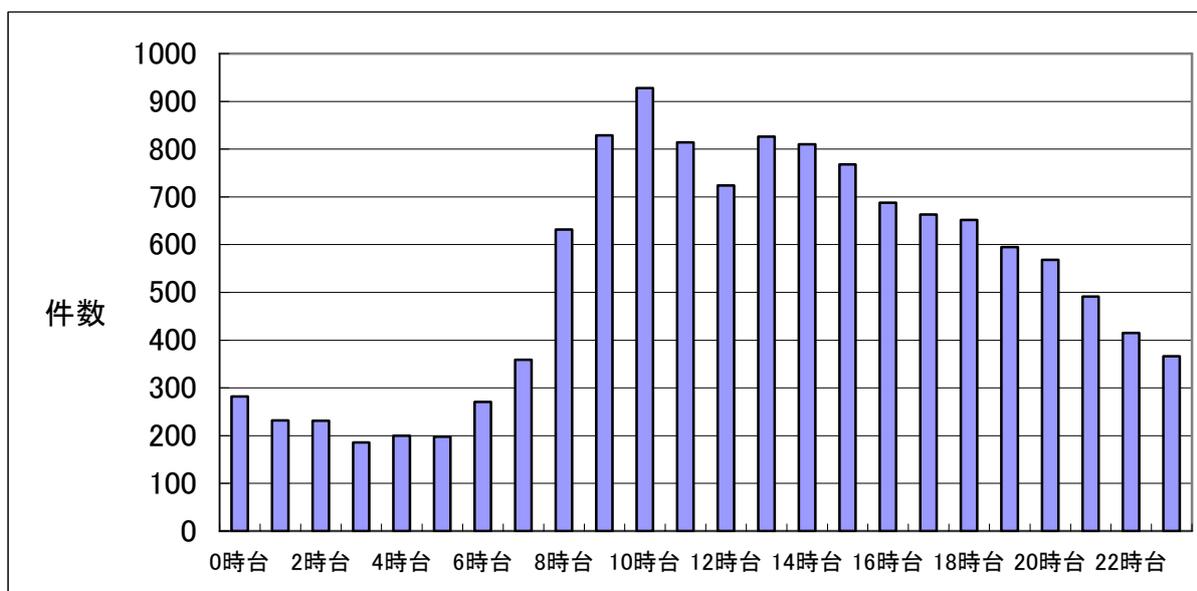
別図IV－2 月別着信状況



別図IV－3 携帯電話と固定電話からの着信比率の推移



別図IV－4 時間帯別着信件数の推移



消防団・水利
大火災記録

消 防 団

消防団の人員と装備

平成19年4月1日現在

人 員		人 員									消 防 車 輛 等			
		定員	実員	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	消防ポンプ車	小型ポンプ積載力車	小型ポンプカブ	手引ポンプカブ
市町村別														
合 計		1,379	1,284	9	20	72	73	71	208	831	51	22	113	0
米 子 市		544	509	1	4	28	28	54	121	273	15	9	1	-
境 港 市		116	103	1	2	6	8	7	14	65	6	-	-	-
西 伯 郡	日 吉 津 村	35	26	1	2	-	-	-	4	19	2	-	-	-
	大 山 町	157	143	1	4	11	10	10	20	87	8	2	44	-
	南 部 町	149	149	1	3	7	7	-	14	117	5	3	1	-
	伯 耆 町	163	142	1	2	7	7	-	14	111	4	4	-	-
日 野 郡	日 南 町	103	102	1	1	7	7	-	7	79	5	2	41	-
	日 野 町	62	61	1	1	4	4	-	6	45	4	1	3	-
	江 府 町	50	49	1	1	2	2	-	8	35	2	1	23	-

管内水利状況

平成19年4月1日現在

区分 市町村別		水 利				
		基準数	現 有 数			
			公設消火栓 (150mm以上)	公設水槽 (40t以上)	そ の 他	計
合 計		4,015	1,407	831	1,176	3,414
米 子 市		1,749	1,056	161	590	1,807
境 港 市		465	285	61	14	360
西 伯 郡	日吉津村	64	50	0	11	61
	大山町	389	5	245	21	271
	南部町	264	11	127	95	233
	伯耆町	259	0	101	69	170
日 野 郡	日南町	500	0	56	188	244
	日野町	218	0	18	137	155
	江府町	107	0	62	51	113

大 火 災 記 録

1. 米 子 市 (建物焼失面積 1, 000 m²以上)

- ・昭和 30 年 4 月 8 日 (美保少年院火災)

午前 11 時 30 分、大篠津町美保少年院から出火し、9 棟延 2, 577 m²を焼失した。

損害額約 1, 218 万円、原因……煙草吸殻。

- ・昭和 31 年 12 月 21 日 (田中木工所火災)

午後 9 時 0 分、富士見町二丁目 155 番地田中木工所から出火し、周囲の民家にも延焼して 9 棟延 1, 793 m²を焼失した。損害額約 1, 325 万円、原因……こたつの過熱。

- ・昭和 34 年 7 月 22 日 (石垣木工所火災)

午前 4 時 25 分、米原 1, 496 番地石垣木工所かしら出火し、全焼 7 棟、半焼 2 棟延 2, 027 m²を焼失した。損害額約 2, 215 万円、原因……不明。

- ・昭和 37 年 12 月 11 日 (山一ベニヤ火災)

午前 0 時 10 分、角盤町四丁目 30 番地有限会社山一ベニヤ製作所から出火し、周囲の民家にも延焼して全焼 7 棟、半焼 2 棟延 1, 828 m²を焼失した。

損害額約 2, 192 万円、原因……電気アイロンの過熱。

- ・昭和 40 年 4 月 7 日 (義方小学校火災)

午前 1 時 38 分、立町四丁目義方小学校から出火し、延 1, 301 m²を焼失した。

損害額約 1, 973 万円、原因……不明。

- ・昭和 43 年 8 月 4 日 (米子木工株式会社火災)

午後 1 時 43 分、米原 1, 491 番地米子木工株式会社から出火し、延 1, 470 m²を焼失した。

損害額約 4, 894 万円、原因……熔断の火の粉が塗料かすに着火。

2. 境 港 市 (建物焼失面積 1, 000 m²以上及び特殊火災)

- ・昭和 10 年 1 月 12 日 (栄町大火)

午後 7 時 55 分、栄町三勇庵 (置屋業) から出火し、全焼 381 戸の大火となった。

損害額約 180 万円、原因……灯明の火、以後 1 月 12 日を火災記念日とする。

- ・昭和 10 年 11 月 24 日 (中町火災)

午前 1 時 50 分、中町墓地からの飛火により共有地から出火し、全焼 11 戸、半焼 3 戸の大火災となった。原因……不明。

- ・昭和 18 年 12 月 30 日 (石橋造船火災)

午前 8 時頃、岬町石橋造船所から出火し、造船工場・事務所・製材所など 6 棟を焼失した。

損害額 70 万円、原因……焚火。

- ・昭和 20 年 4 月 23 日 (玉栄丸爆発)

午前 7 時 40 分、陸軍徴用船玉栄丸積載の火薬が爆発し、全焼 76 戸、全壊 355 戸、被災面積 1, 426 m²に及び、消防団員 5 名が殉死した。

- ・昭和 24 年 4 月 18 日 (京町火災)

午前10時30分、京町置屋業真木方から出火し、全焼5棟、半焼4棟、延1,426㎡を焼失した。
原因……不明。

・昭和35年2月2日（日の丸窯業火災）

午前6時4分、弥生町日の丸窯業から出火し、延1,266㎡を焼失した。
損害額約905万円、原因……乾燥機過熱。

・昭和38年4月10日（日の出館火災）

午後11時45分、日の出町映画館日の出館から出火し、延443㎡を全焼した。
損害額615万円、原因……不明。

・昭和39年2月24日（中浜小学校火災）

午後11時頃、小篠津町中浜小学校給食室から出火し、138㎡を焼失した。
損害額85万円、原因……取灰。

・昭和41年8月28日（第一水産火災）

午後4時5分、上道町水産加工場から出火し、延1,589㎡を焼失した。丁
損害額約1,599万円、原因……魚油の自然発火。

・昭和45年6月24日（石橋造船火災）

午前0時35分、岬町石橋造船所から出火し、延1,980㎡を焼失した。
損害額約1,292万円、原因……不明。

・昭和48年11月18日（丸神海産火災）

午後9時35分、栄町の水産加工場から出火し、延2,953㎡を焼失した。
損害額約8,015万円、原因……不明。

3. 広域消防発足後（建物焼失面積1,000㎡以上）

・昭和51年9月6日（朝日座火災）

午後2時6分、米子市朝日町65番地映画館朝日座から出火し、延1,302㎡を焼失した。
損害額約1,353万円、原因……不明。

・昭和58年6月4日（米子林産工業(株)火災）

午前1時頃、米子市錦町3丁目24番地米子林産工業(株)から出火し、延2,502㎡を焼失した。
損害額約4,780万円、原因……不明。

・平成3年4月4日（(有)景山商店火災）

午前4時9分頃、境港市中野町官有無番地(有)景山商店加工場より出火し、延1,168㎡を焼失し
た。損害額3,217万円、原因……不明。

・平成16年10月27日（山陰食鶏）

午前9時30分頃、西伯郡淀江町中間16山陰食鶏より出火し、延1,068㎡を消失した。
損害額5,978万円、原因……溶接機の火粉

・平成17年8月25日（阿部木工所）

午後7時20分頃、米子市富益町1268阿部木工所より出火し、延1,605㎡を消失した。
損害額5,805万円、原因……不明

関 係 団 体

第1号議案

[米子市危険物保安協会]

平成18年度事業報告書

1. 調査研究の部

(1) 危険物保安技術協会保安講習会（東京）

平成18年7月10日～11日

事務局 1名参加

(2) 先進地視察研修

平成18年9月7日～8日

13名参加

1日目 大阪ガス生活誕生館ディリパ

2日目 新コスモス電機

2. 研修の部

(1) 新規採用職員防災研修会

平成18年6月29日 鳥取県消防学校

95名参加

(2) 鳥取県危険物取扱者保安講習（法定講習）

平成18年9月11日・12日

鳥取県西部総合事務所

(3) 危険物関係者研修会

平成19年3月14日 米子ワシントンホテル

58名参加

演題：モーツァルトによる右脳開発

講師：杉原弘一郎氏（東京印刷株式会社）

3. 講習会の部

(1) 第1回危険物取扱者試験準備講習会

乙種4類 平成18年5月24日～26日

111名参加

合格率 50.0%（県平均 30.6%）

丙種 平成18年6月6日

12名参加

合格率 81.8%（県平均 58.3%）

(2) 第2回危険物取扱者試験準備講習会

乙種4類 平成18年10月16日～18日

52名参加

合格率 57.8%（県平均 36.3%）

丙種 平成18年10月26日

10名参加

合格率 90.0%（県平均 53.8%）

(3) 第3回危険物取扱者試験準備講習会

乙種4類 平成19年1月9日～11日 14名参加
合格率 100% (県平均 41.9%)

4. あっ旋事業の部

火災予防例規集、標識・掲示板等のあっ旋

5. 広報活動の部

(1) 秋季火災予防運動のポスター作成配布 11月
(2) 会報(第66号)作成配布 3月

6. 防火協力の部

危険物法令説明会に協賛
平成18年6月21日 鳥取県消防学校

7. 会議の部

(1) 定期総会、役員会
平成18年5月16日 ベルライトよなご
(2) 鳥取県危険物保安協会連合会理事会
平成18年7月7日 皆生温泉 東光園
(3) 新年役員会
平成19年1月23日 皆生グランドホテル天水

8. 特別事業の部

米子市危険物保安協会創立50周年記念式典・祝賀会
平成18年11月22日 米子ワシントンホテルプラザ

9. その他

鳥取県危険物安全大会
平成18年6月9日 倉吉市(中部協会)

第1号議案

[米子自衛防火協会]

平成18年度事業報告

1. 調査研究の部

先進地視察研修

平成18年9月7日～8日

13名参加

1日目 大阪ガス生活誕生間館ディリパ

2日目 新コスモス電機

2. 研修の部

新規採用職員防災研修会

平成18年6月29日 鳥取県消防学校

95名参加

3. 会報発刊の部

会報(54号)作成配布

3月

4. 防火思想普及の部

(1) 秋季火災予防運動のポスター作成配布

11月

(2) 防火ビデオ・DVD購入

「職場の中の消防設備」(VHSビデオ)

「こぎつねの消防隊」(DVD・アニメ)

「アニメハチ公物語」(DVD・アニメ)

(3) 防火ビデオ・フィルムの貸し出し

5. 会議の部

(1) 定期総会、役員会

平成18年6月15日 西部消防局

(2) 新年役員会

平成19年1月23日 皆生グランドホテル天水

6. その他

(1) 甲種防火管理者資格取得講習会の図書斡旋

第1回	平成18年6月22日～23日	106名参加
第2回	平成18年11月28日～29日	123名参加
第3回	平成19年2月28日～3月1日	32名参加

(2) 甲種防火管理再講習の図書斡旋

	平成18年8月2日	46名参加
--	-----------	-------

会員数	期首	290会員	(平成18年4月1日)
	入会	1会員	退会 12会員
	期末	279会員	(平成19年3月31日)

[境港市消防保安協会]

平成18年度 事業報告

1. 会報の発行

3月1日 会報第48号発行

2. 消火訓練会の開催

事業所、自治会を対象に消火訓練会を開催

3. 防火ビデオの貸し出し

事業所、保育園等に防火ビデオの貸し出し

4. 消火競技会の開催 9月27日

第27回事業所対抗消火競技会を開催

12チーム・24名参加

優 勝 (株)アクティー境港営業所 A チーム

第2位 吉備総合電設(株)米子営業所トライケミカル

第3位 (株)アクティー境港営業所 B チーム

5. 先進地視察研修

10月26日～27日 京都市民防災センター

会員4名、事務局員3名

6. 講習会の開催

危険物取扱者試験準備講習会の開催

5月、10月の年2回

7. 会議関係

(1) 境港市保安協会関係

5月10日 役員会議

6月 6日 第47回 総会

(2) 鳥取県危険物保安協会連合会関係

5月12日 県危連事務局長会議（倉吉市）

7月 7日 県危連理事会（米子市）

8. 表彰関係

6月 6日 定例表彰 事業所2

9. その他

(1) 鳥取県危険物安全大会（倉吉市）

(2) 6月18日 境港市消防団ポンプ操法大会に協力
(優勝第四分団)

(3) 6月、11月、1月の危険物取扱者試験実施案内

(4) 9月11日、12日の危険物取扱者保安講習開催案内

(5) 消火競技会用消火器薬剤充填

(6) 米子市危険物保安協会設立50周年記念式典出席

(会長・事務局長)

平成18年版 消防年報

平成19年10月 発行

編集・発行 鳥取県西部広域行政管理組合消防局

〒683-0853鳥取県米子市両三柳5, 452番地

TEL (0 8 5 9) 3 5 - 1 9 5 1

FAX (0 8 5 9) 3 5 - 1 9 6 1
